

令和6年度 支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

平素は、会員並びに支部（施設等）の皆様方のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、令和 7（2025）年度当初におきまして、当大阪生活サポート協会会員数が 1 万人を超えました。

「支部活動等助成事業」は平成 20（2008）年 4 月に発足した当大阪生活サポート協会の最初に取り組んだ事業であります。平成 22（2010）年度から毎年度実施しており、15 年になります。

この事業実施の目的は、①会員の皆さま一人一人が暮らしたいと希望する地域で、安心・安全に「自分らしく」在ってほしい、②事業所等におかれては、自由な発想でニーズに対応した事業の実施をしてほしいとの思いから継続してきました。

令和 6 年度の助成事業実施事業所等の事業内容は、下記のとおりです。

旅行 (一泊・日帰り)	防災関係	地域交流	研修	食事会	その他	計
9	9	8	4	2	4	36

大阪生活サポート協会は、知的障がい児者・発達障がい児者が安心・安全に地域で「自分らしく生きる」を各種事業と補償制度で支援しています！

- (1) 会員・その家族、支部（事業所等）支援
 - ・会員参加型事業～作品展示会、集まれグループホームなど
 - ・事業所等支援～支部活動等助成事業など
- (2) 人材育成事業～支援者研修、家族対象セミナー など
- (3) 地域支援～地域における支援力向上～
 - ・地域住民の参加、地域での作品展示会開催などによる啓発
- (4) 相談（365 日・24 時間）～困ったとき、いつでも～
 - 対面相談（予約制）、電話相談、ホームページ上での「何でも相談コーナー」など
- (5) 「生活サポート総合補償制度（AIG 普通傷害保険）」の充実・継続

地域密着型事業の推進を！

施設入所から地域生活への移行が進められ、今や共同生活援助（以下、グループホーム）」入居者数が施設入所支援利用者数を上回っています。それぞれの地域には多数のグループホームが存在し、その運営母体は社会福祉法人をはじめ NPO 法人、株式会社などが多数参入しております。

入居者の重度化・高齢化傾向、日中活動の休みの土・日の余暇支援のありようなど、地域に溶け込んで暮らしているのだろうか。入居者の実態に即した環境要因へのアプローチの必要性、加えて入居者の日常生活支援に携わる支援者の育成など、課題が多々あります。

グループホーム生活を支える支援者が上記の課題を共有すると共に、支援のやりがいや悩みなどの意見交換できる場を身近な地域で参加しやすい時間帯に設定するなど、今出来ることから実践してほしい。

地域の障がい者の暮らしを支える事業や人材育成事業など、それぞれの地域性を活かして実践されることを期待します。これらの実践の積み重ねが地域でのネットワーク、法人間の連携・協働へと発展し、地域の支援力向上につながると確信しています。

※令和 7 年度定時社員総会（6 月 10 日）にて、当協会名の名称変更が承認されました。

「一般社団法人大阪生活サポート協会」になります。

令和 7（2025）年 7 月吉日

一般社団法人 大阪生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (社福) 路交館	ういず滝井…………… 1
2 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センターねぎぼうず…………… 2
3 (株) アシスト	生活介護ぱずる…………… 4
4 (社福) フォレスト福祉会	風の森…………… 5
5 (社福) バオバブ福祉	えるで…………… 6
6 (株) オールケア旭	オールケア旭…………… 7
7 (社福) ゆうとおん	ほーぷ…………… 8
8 (社福) 風の会	風の会…………… 9
9 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	じょぶライフだいせん……………11
10 (株) Cocofeel	ミーサ……………12
11 (社福) いわき学園	いわき生野学園……………13
12 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ……………15
13 (社福) ノーマライゼーション高槻	コルメナ……………17
14 (社福) 和泉つくし福祉会	さらの郷……………18
15 (社福) こそせ福祉会	第2拓作業所……………20
16 (合同) 美ノ倉	やすらぎの苑 中津 ……21
17 (社福) 自立支援協会	ケアホームアピカ……………22
18 (社福) ナポレオンフィッシュ	ナポレオンフィッシュ……………23
19 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センター中……………24
20 (社福) さつき福祉会	集いの場 ふりーばーど ……26

2 1 (社福) コスモス	ふれあいの里かたくら……………27
2 2 (社福) 今川学園	今林の里……………28
2 3 (社福) 大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房……………29
2 4 (社福) 路交館	ういず守口……………31
2 5 (社福) 路交館	桜の園……………32
2 6 (株) 業務企画センター	ビジネスプランニングセンター……………33
2 7 (社福) 大阪福祉事業団	豊里学園……………34
2 8 (NPO) いちばん星	新星……………36
2 9 (社福) 大阪肢体不自由者協会	守口障害者支援センター ひだまり ……37
3 0 (NPO) チャレンジド・ネットいずみ	ととろプラス……………38
3 1 (社福) 障友会	ケアスペースつむぎ……………39
3 2 (社福) 讃良福祉会	ワークセンター小路……………40
3 3 (社福) 北摂杉の子会	おれいす B e ……42
3 4 (社福) おれんじ会	クッキー工房 おれんじはうす ……44
3 5 (社福) 草の根共生会	蓮……………45
3 6 (社福) ぷくぷく福祉会	ぷくぷく福祉会……………46

II 資料

令和 6 年度支部活動等助成事業実施要項

令和 6 年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会事業の理念と概要

● 表紙作品 「竜宮城」(あい・あい塾)

令和6年度 支部活動等助成事業報告

I 支部活動報告

1 支部名：ういず滝井

- ① 実施日：令和6年9月6～7日
- ② 実施場所：兵庫県（姫路セントラルパーク）
- ③ 対象者：利用者 19名 職員 11名 計 30名
- ④ 実施概要・目的

「利用者宿泊旅行の実施」

7月初旬：生活介護とB型一緒に行くか検討、一緒に行くことに決定。7月下旬：行き先の提案実施 8月：宴会に向けての取り組み、しおり作成、日程確認。

目的：絆を深める。

【過程を大事にする】

メンバー旅行までの話し合い（姫路セントラルパークやフルーツフラワーパークの回り方、宴会の演目決め・練習、部屋割り、バスの席等）をチームの中で行う、また、旅行までの事業所での屋外での活動、散歩等を通じてチームのメンバーの屋外での特性を知る中で、絆を深める。

【みんなで作る】

旅行当日に参加できないメンバーも、旅行までの話し合いやバス内でのレクリエーションの内容決定、宴会の準備にできるだけ参加する。

【達成感と自信】

メンバー旅行委員を大事にし、会議の後にはみんなに報告、前に立って発言する、旅行のバスレクリエーションや宴会の内容の検討を進める中で、達成感や自信を感じる。

【みんなとだから！を発見】

みんなと一緒にだからできる！これは諦めないといけない等を発見する。

【慰労・次の力に】

日々の仕事や生活の慰労、事業所での生活のメリハリ、次のやる気アップに繋げる。

⑤ 具体的内容

メンバー旅行まではどこに行きたい？雨ならどうする？何を食べたい？チームで動く？等、色んなことを利用者会議で決めました。旅行に行きたいをどのように実感していくか、利用者同士の関係を考慮しチーム作りを行った。旅行までの過程を大切にしていって、みんなと一緒にできることを発見し、日々の生活や生活の慰労、メリハリ、次のやる気アップに繋げた。旅行の取り組みを自分たちで計画し進めていくことで、自信に繋げることができた。

⑥ 成果

毎年の経験の積み重ねで、利用者が主体的に自分たちの旅行を計画していくことができた。行き先から決めていき、今年度は「姫路セントラルパーク」に決まりました。行

き先が決まってからは、仕事の合間に各チームの宴会練習に熱が入りました。当日の朝まで職員、メンバー共に、ドキドキして迎えました。旅行が終わり、参加者・欠席者共に振り返りを行い、「また、来年も行きたい！」と多数から声が上がりました。来年はどんな目的を持った旅行になるか、今から楽しみです。

⑦ 今後の展望

仕事や行事に追われながらも利用者が決めていける支援（当事者主体）を目指しています。地域交流もしていきたいです。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	2日目昼食費	75,000
自己資金	823,540	バス代	246,400
		高速代	17,520
		宿泊費	469,250
		入場料	57,000
		旅行者手数料	5,500
		バス乗務員宿泊料	9,830
		旅行傷害保険	6,000
		手配料	7,040
計	893,540	計	893,540

2 支 部 名：支援センターねぎぼうず

① 実 施 日：令和6年10月11日

② 実 施 場 所：ミッドミュージアム、宝塚ホテル、宝塚市立手塚治虫記念館

③ 対 象 者：利用者 11名 家族 6名 職員 6名 計 23名

④ 実施概要・目的

「利用者日帰り旅行の実施」

社会見学や体験を通じて人々と交流し、物づくりや食文化、漫画やアニメの歴史・大切さを学び、見聞を深めるとともに、買い物や昼食を通じて社会マナーやエチケットを学ぶ。

⑤ 具体的内容

ミスドミュージアム：ドーナツボールのトッピング体験

宝塚ホテル：ランチビュッフェ体験

宝塚市立手塚治虫記念館：館内見学

⑥ 成 果

ミスドミュージアムでは、普段よく利用するミスタードーナツの歴史等を学ぶとともに、トッピング体験では自分でフレーバーを選び、楽しくドーナツを作ることができました。昼食のビュッフェでは形式に慣れてきたこともあり、「自分の食べられる量だけ取る」こともできるようになっていました。手塚治虫記念館では手塚治虫氏の足跡や漫画、アニメの歴史も楽しみながら学ぶことができました。

また今回のもう一つのテーマである「家族の絆を深める」ことも6名の家族に参加いただくことができました。高齢になり家族での旅行が困難な方や、利用者がグループホームに入居し、会う機会が減っている方も短い時間でしたが、一緒に過ごし思い出が作れたと好評をいただきました。

⑦ 今後の展望

今後は利用者や家族の高齢化が進む中で1つでも多くの思い出を作る機会を提供するとともに、利用者の意思決定支援を進め、一人ひとりのニーズを大切にした活動や行事、イベントをしていきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	日帰りバス代金	298,410	
自己資金	148,410			
計	298,410	計	298,410	

3 支 部 名：生活介護ぱずる

- ① 実 施 日：令和6年10月7日
- ② 実 施 場 所：生活介護ぱずる（事業所内）
- ③ 対 象 者：管理者、職員 計 2名
- ④ 実施概要・目的

「非常用発電機の購入」

災害時における停電等を想定し、購入した可搬型非常用発電機を利用し、スマートフォンの充電を行った。地震や停電などの緊急時に、パソコンや施設内のスマートフォンといった機器に電力を供給し、災害情報の収集や家族との連絡、また救助要請に役立てることを想定しています。

⑤ 具体的内容

災害時に備え、施設が開所中に使用可能な可搬型非常用発電機を準備する計画を立てています。この蓄電池は、地震や停電などの緊急時に、パソコンや施設内のスマートフォンといった機器に電力を供給し、災害情報の収集や家族との連絡、また救助要請に役立てることを想定しています。さらに、利用者の健康管理や薬の管理を確実に行うために、扇風機やサーキュレーター、冷蔵庫などの設備も稼働させる計画です。こうした対策を講じることで、災害発生時でも施設内での安全と快適な環境を維持することが目的です。

⑥ 成 果

管理者と職員で災害時を想定し購入機器を実際に使用しました。使用したことで取り扱い方法や使用方法の習得ができました。結果、災害時や停電時に一時的に円滑な電源の確保ができるようになり、災害時に関しては事業所を利用していただいている利用者にとって安全な環境の維持ができるようになりました。

⑦ 今後の展望

可搬型非常用発電機の使用に関して、すべての職員への使用方法についてのレクチャーを行い、機器についてマニュアル等の作成も検討し、どのような状況下においても対応できるように努めていきます。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	可搬型非常用発電機	72,050	
自己資金	2,050			
計	72,050	計	72,050	

4 支 部 名：風の森

- ① 実 施 日：令和6年11月20日
- ② 実 施 場 所：風の森 敷地内
- ③ 対 象 者：利用者 28名 職員 15名 計 43名
- ④ 実施概要・目的

「非常用発電機の購入」

大規模地震による停電に備えるため購入。南海トラフをはじめとする大規模地震が起こり、停電となった場合、帰宅困難となり事業所に残る可能性があります。そうなると電力の備蓄も当然必要であり、今回発電機の購入助成金を申請いたしました。また、今回、ポータブル発電機ということでもあり持ち運びやすいため、近隣のグループホームでも大いに活用できると考えています。

⑤ 具体的内容

停電となった場合、携帯電話の充電・灯り・非常食（お湯を沸かす）などの電源活用を考えています。また今回の発電機購入をきっかけに職員一人ひとりが防災意識を高めていくことを期待しています。

⑥ 成 果

大規模地震などで停電となると、災害時のBCP（業務継続計画）は重要となってきます。今回、発電機の購入費用を助成していただいたことで停電に備えることができました。

⑦ 今後の展望

実際に使う必要があるときに、使い方に戸惑っては意味がありません。毎回の避難訓練時に発電機の使い方の時間を設けていき、全職員が適切に使用できるようにしていきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	ポータブルガス発電機	154,000	
自己資金	5,781	エンジンオイル	1,781	
計	155,781	計	155,781	

5 支 部 名 : え る で

① 実 施 日 : 令和6年3月20日

② 実 施 場 所 : は一とビュー (松原市人権交流センター)

③ 対 象 者 : え る で利用者、関係者、地域団体、及び、地域住民 約650名

④ 実施概要・目的

「みんなのWA2025の開催」

阪神・淡路大震災から30年。各種団体が結集し、「人と人とのつながり」の大切さを再認識し、みんなが元気で明るく過ごせる地域づくりをすすめます。

地域の方々、絆(子ども)食堂に参加する子どもたちが、楽しく参加し、みんなが交流しあえる機会をつくります。

⑤ 具体的内容

各種出店(飲食、体験、製品販売、フリーマーケット、子ども遊びコーナーなど)

ステージ企画(各種団体より出演)、絆(子ども)食堂開店

⑥ 成 果

今回の「みんなのWA」は、昨年とは異なり朝から晴天に恵まれて、約650名ものお客様にご来場頂きました。今年は阪神・淡路大震災から30年の年にあたることを踏まえ、改めて、人と人とのつながりの大切さを再認識できるイベントにすることを目的に行いました。昨年、つながることができた松原防災士会のみなさんや数年ぶりに参加いただいた針金細工のボランティア講師の方、毎年変わらず参加いただいている地域団体やボランティアのみなさん等々・・・新しくつながった方も昔からのなじみの方もお久しぶりの方も、たくさんの方とのつながりを改めて実感するイベントとなりました。

⑦ 今後の展望

これからもこのイベントを通じて多くのつながりを作り、「共に地域でいきいきと」できる関係をつくる機会にしていきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	広報（チラシ印刷）	28,094	
売上（出店等）	76,850	野菜代	62,620	
カンパ	20,000	ブルーシート・養生テープ	49,797	
自己資金	14,075	レーザー体験費用	60,000	
		段ボール等	11,168	
		バルーンアート	5,697	
		ポリ手袋等	3,275	
		プロパンガス	9,460	
		飲み物代	7,814	
		市民活動行事保険	3,000	
		謝礼（6団体）	70,000	
計	310,925	計	310,925	

6 支 部 名：オールケア旭

- ① 実 施 日：令和6年10月23日
- ② 実 施 場 所：オールケア旭
- ③ 対 象 者：利用者 14名 職員 15名 計 29名
- ④ 実施概要・目的

「ポータブル電源の購入（増設）」

避難訓練の実施と避難を想定した場合の、備品類の充電に係る時間数の確認。災害時における電源確保のためのポータブル電源増設のための購入。

⑤ 具体的内容

自衛消防訓練サポートセンター職員の立ち合いのもと、火災を想定したシュミレーション初期消火・避難誘導の訓練を行ったあと、ポータブル電源を実際に非常用照明などにつないで充電等の確認作業を行った。

当施設では、医療的ケアを必要とする方が大変多く、ほとんどの方が区分6であり、重症心身障がいの方です。大規模災害が日中の活動中に起こった場合を想定すると、利

用者の家族との連絡がとれ、帰宅できるまでは事業所で過ごす事になり、利用者と職員が必要な電力の供給が必要である。安定した電気が供給できるよう今年度もポータブル電源の増設をしました。

⑥ 成 果

ポータブル電源を使い、充電に係る時間もスムーズで、優先順位の高い機器から行うなど、追加購入を助成していただいたおかげで停電に備えることができました。

⑦ 今後の展望

人工呼吸器・加温加湿器を必要とする利用者が今年度さらに増えているので、同時使用するには現状の2台では不足するため、また今後も定期的に増設を図る必要がある。また平時の活動等にも使用し非常時にスムーズに対応できるよう、職員への周知・研修を持ち、利用者の生活が安全に楽しく豊かになるよう考えて活用していきます。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	ポータブル発電機	85,443	
自己資金	15,443			
計	85,443	計	85,443	

7 支 部 名：ほーぷ

- ① 実 施 日：令和6年10月26日
- ② 実 施 場 所：社会福祉法人ゆうとおんはーと ほーぷ
- ③ 対 象 者：当事者、家族、職員、地域住民、他事業所 計 約220名
- ④ 実施概要・目的

「ゆうとおんねんまつりの開催」

地域の方々の交流の場や他事業所との交流の場を中心とした目的で開催。開催にあたっては当事者から実行委員の参加者を募り、当事者を含めたゆうとおん会議を何度も行いました。当事者にやりたいことなどの意見を出してもらいながら模擬店なども考えることができました。

⑤ 具体的内容

模擬店の出店。内容は焼きそば・ベビーカステラ・カレーライス・ポてから（ポテトフライ・からあげ）・ゲーム：吊りゲーム・ピンポン玉入れ・ヨーヨーつり・スーパーボールすくい。他にも授産製品の販売・アートクラブの製品販売・さをり織りワークショップ・当事者活動（みんなできめる会）でジュースなどの販売。

⑥ 成 果

地域から来ていただいた方や日頃は事業所に来ることが難しいご家族などに、事業所での日頃の活動を知ってもらえる機会を設けることができました。今年は去年に続き、ゆうとおんバンドの演奏も実施。新たにゆうとおんの演劇団「劇団ひなたぼっこ」や「西郡秋祭り地車保存会」など新しい要素も加えることで、より多くの地域の方々と交流することができました。また他事業所からも（ラルゲット・たんぼぼ）出展いただくことができ、他事業所との交流の場を設けることができました。

⑦ 今後の展望

今後も行事を継続していき、地域の方々との交流を深めていき、より多くの人にゆうとおんや他の事業所を知ってもらえるように考えていきます。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	50,000	まつり案内チラシ	7,090	
自己資金	48,572	看板材料費	7,728	
		ゲームコーナー景品代	9,849	
		屋台用各種材料費	3,943	
		屋台用食材費	45,638	
		ボランティア贈呈品	1,980	
		だんじり・演劇衣装	11,760	
		殺菌剤	10,584	
計	98,572	計	98,572	

8 支 部 名：風の会

① 実 施 日：令和6年10月1日

② 実 施 場 所：びわ湖大津館

③ 対 象 者 : 利用者 24名 家族(母親) 6名 職員 21名 計 51名

④ 実施概要・目的

「利用者日帰り旅行の実施」

びわ湖大津館にて初めてのフレンチ料理や歴史建造物の見学を体験。また仲間との交流を育む。

⑤ 具体的内容

昭和9年創業の旧びわ湖ホテル「びわ湖大津館」へ行き、歴史建造物の見学と裏庭のびわ湖周辺を散策した。また、レストランではフレンチ料理のコースをいただいた。そして重度障がい者のお母さま方にも介護疲れを癒してもらうため、会話を楽しみながらゆっくりと昼食をとってもらいました。

⑥ 成 果

初めてのフレンチ料理をコースでいただき、はじめは緊張気味だった利用者も、食事のおいしさに笑顔が溢れていました。お母さま方も普段お互いに顔を合わすことがないので、会話も弾んでおられました。食事後はお子さんと一緒に散歩を楽しまれていました。帰りのバスではカラオケ大会となり、皆さんここぞとばかり得意な歌を披露されていました。このように充実した一日を楽しく過ごす事ができました。

⑦ 今後の展望

医療的ケアを必要とする方3名、身体不自由の方3名が、他の知的障がいの方々と一緒に旅行に行けたことは法人にとって大きな収穫となりました。排せつ介助も屏風で仕切ってください、持参したキャンプ用のベッドで行うことができました。これは支援者にとっても、今後利用者の活動の幅を広げることができる大切な経験となりました。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	マイクロバス代	81,500	
自己資金	72,412	マイクロバス回送代	2,630	
		食事代	118,051	
		マイクロバス高速代	6,650	
		車椅子車両高速代(3台)	13,581	
計	222,412	計	222,412	

9 支 部 名：じょぶライフだいせん

① 実 施 日：令和6年10月26日

② 実 施 場 所：じょぶライフだいせん

③ 対 象 者：入所 38名 グループホーム 6名 短期入所 1名 家族 11名 職員 30名
計 86名

④ 実施概要・目的

「音楽鑑賞・食事会の実施」

利用者、職員、家族の親睦を兼ね、普段から外出の難しい利用者の楽しみであり、職員のモチベーションを向上するために実施。

⑤ 具体的内容

・音たね一座による音楽

・キッチンカーにてフルーツサンド（3種類より）＆コーヒー、リンゴジュースの販売

高齢重度の利用者が、みんなで楽しめることを目的に考えました。昨年実施させていただいた時の、利用者の表情がとても素敵でした。今年も、演奏者の声掛けに合わせて思い思いに身体を動かしたりと、目の前の演奏にとっても盛り上がり思い出に残るイベントとなりました。身体を動かした後の、フルーツサンド（あんこ・フルーツ・卵）、コーヒーは本当に皆さん至福の笑顔でした。利用者・家族共にリラックスして穏やかに有意義な時間を過ごすことができました。

⑥ 成 果

利用者、家族、職員共にたくさんの笑顔と良い思い出を創ることができました。

⑦ 今後の展望

利用者の希望を聞き、音楽鑑賞と食事会は継続して実施していきたい。

利用者の思いを大事にしながら、職員間のコミュニケーションも図っていきたい。

また利用者と職員が元気になれる楽しいイベントを開催していきたいです。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	112,500	キッチンカー	55,000	
自己資金	12,664	コンサート謝礼	50,000	
		飲料代	5,273	
		クッキー代	3,000	
		花代	10,440	
		菓子代	1,451	
計	125,164	計	125,164	

10 支 部 名：ミーサ

- ① 実 施 日：令和7年1月20日
- ② 実 施 場 所：ミーサ事業所
- ③ 対 象 者：利用者 8名 職員 5名 計 13名
- ④ 実施概要・目的

「災害時におけるポータブル電源の購入と地震想定避難訓練の実施」

- ・緊急地震速報が出た際に、自ら命を守るためにはどうすれば良いかを考え、正しい避難の行動を身に付ける。
- ・利用者一人ひとりの防災意識の向上と地震発生時における事故の防止を図る。
- ・訓練を通して安全に避難する方法や順序を体得する。
- ・利用者は職員の指示をしっかりと聞き、静かに安全に行動できるようにする。
- ・避難経路を確認し、安全に避難できるようにする。
- ・皆の防災意識を高めるようにする。
- ・職員は利用者の安全誘導を優先する。

⑤ 具体的内容

安全に誘導するために、職員毎に担当する利用者を決定し、避難通路の確保、点検、ポータブル電源の持ち出し担当も決定しておく。

- ① 地震発生時に担当する利用者：職員共に揺れが収まるまで机の下に隠れるように誘導
- ② 揺れが治まると先ず職員が安全を確保しながら、玄関ドアより非常階段を利用して駐車場の空きスペースへ避難誘導する。その際には靴の履き替えはせず転倒などの安全面に配慮し声を掛けながら誘導する。
- ③ 駐車場に集合後、点呼を行い皆がそろって安全なことを確認する。
- ④ 点呼確認後に、人員を把握するためには、皆が勝手な行動を行わないなどの協力が必要不可欠など、訓練の意義や重要性についての説明を行う。
- ⑤ 停電が発生したときのために、ポータブル電源で携帯電などの充電がスムーズに行えるかの動作確認を行う。

⑥ 成 果

- ・地震発生の場合から揺れが治まるまで机の下に身を隠すように誘導し、かなり長時間の間そのままじっとしておけるかどうか確認したが皆、声をあげたり勝手に動いたりする事などがなく、じっと静かにそのままの状態で行うことができていた。
- ・避難通路の確保や声かけもスムーズに行うことができた。
- ・非常階段を降りる時も、あせったり追い抜いたりせずにゆっくりと順番通りに安全に降りることができた。
- ・点呼をとる時も名前を呼ばれたら、皆ははっきり声を上げて返事をしたり手を挙げたりし、スムーズに確認ができた。
- ・注意事項などの説明時も静かに職員の話聞くことができていた。
- ・ポータブル電源を購入できたことで、携帯電話への充電もスムーズに行うことができた。

⑦ 今後の展望

ポータブル電源は屋内でも利用することができ、またソーラーパネルにて停電が長引いても蓄電可能であるために、野外に出ていけない状態のときにも活用できる。ソーラーパネルでの充電の確認も行っていきたい。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	ポータブル電源／ソーラーパネル	111,870	
自己資金	41,870			
計	111,870	計	111,870	

1 1 支 部 名：いわき生野学園

- ① 実 施 日：令和6年7月24、25日 8月22、30日 9月14、28日
令和7年1月25日 2月8日
- ② 実 施 場 所：いわき生野学園
- ③ 対 象 者：新任職員を含む、支援に関わる職員 延べ161名

④ 実施概要・目的

「障がい者支援に関わる研修会（事業所内研修）の実施」

本園では、利用者(知的障がい児・者)が通所し、日中活動や創作活動等を行うことにより、地域社会の中で自立した日常生活、または社会生活を営むことができるよう多様な支援を行うとともに、常に利用者に寄り添った支援を行えるよう、サービスの向上に努めています。

直接処遇職員が、感染症・食中毒の予防や蔓延防止に関する対策、虐待が起きる理由、虐待事例、利用者本位の支援、身体拘束事例等を学び、日々の支援内容を振り返ることで課題や対策、最良の支援方法を見出せるようにします。また知識の習得、意識の向上を図り、利用者一人ひとりの特性に応じた質の高い支援を行えるよう人材を育成するため、多くの職員が受講できる事業所内研修を実施しました。

⑤ 具体的内容

「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止研修（7/24、7/25）」「虐待防止研修 不適切支援を通じて考える（8/22、8/30）」「身体拘束等適正化研修 スピーチロックを通じて考える（9/14、9/28）」「意思決定支援 ニーズ理解を考える（2025：1/25、2/8）」というテーマで、年間を通して8回実施しました。

⑥ 成 果

研修では、様々なテーマに対してグループワーク、グループディスカッションを行い、支援方法や考え方について話し合い、日々の支援内容等を振り返ることで、課題を認識し解決方法や最良の支援方法を見出して、職員間で共有しました。

「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止研修」では、研修内で訓練を実施し、実践的で効果的な対策を学びました。研修後、日々の対策を見直し、必要備品を購入して、予防、防止に努めています。

「虐待防止研修」では、不適切支援が虐待につながるため、具体例を通して、不適切支援が起きる原因や解決策、防止策を学びました。また、職員間で意見の言い合える職場作りやコミュニケーションの活性化が重要であることを認識しました。

「身体拘束等適正化研修」では、利用者への配慮に欠けた言葉遣いがスピーチロック（言葉による拘束）になること、利用者の立場に立った配慮や言い換え表現となる声掛けが必要であることを学びました。「意思決定支援」では、事業ごとのグループで、個別支援計画が利用者のニーズや特性に沿った内容になっているかを確認しました。ニーズを理解する上での大切な視点などを学び、一人ひとりのニーズや特性に基づき支援するよう努めています。

⑦ 今後の展望

本研修を活かし、常に利用者に寄り添った支援を行えるよう、引き続きサービスの向上に努めます。令和7年度も引き続き、障がい者支援に関する研修を実施し、直接処遇職員の知識の習得、意識の向上を図り、利用者支援の質の向上に繋げていきたいと考えています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	研修講師代 (8回分)	240,000	
自己資金	40,000			
計	240,000	計	240,000	

1 2 支 部 名：夢工房くるみ

- ① 実 施 日：令和6年12月24日
- ② 実 施 場 所：夢工房くるみ
- ③ 対 象 者：利用者 32名 職員 23名 計 55名
- ④ 実施概要・目的

「夢工房くるみ大忘年会の実施」

仕事や支援目標に対して努力した1年間の頑張りを労う会

⑤ 具体的内容

一年間の活動をスライドショーで観ながら全員でおいしい昼食を食べる。また、くじ引きでお菓子の詰め合わせや、レトルトカレーの詰め合わせなどの景品をお渡しする。

⑥ 成 果

今年度は実施数日前より新型コロナ陽性者が数名発生したことから、感染拡大防止のため会場をキャンセルすることになり、かなり緊張感のある忘年会になってしまった。それでも毎年恒例の行事になっていることから登所時はみなさんニコニコの表情で来られたのでホッとすることができました。会場の変更についても誰からも不満の声もなく、それぞれのグループで談笑されていて一年間の活動をスライドショーを観ながら振り返っておられました。昼食はお肉のリクエストが多かったことから「特上フィレ、黒牛、ローストビーフの贅沢肉づくし」というリクエストに100%応える弁当を用意しました。また、くじ引きで景品がもらえる取り組みでは、大小さまざまな景品があり、「大きいのを当てる！」と大変盛り上がりました。年に一度の全員参加の取り組みが今年度はこのような取り組みになりましたが、一年間仕事を頑張ってきたこと、自分の目

標に向けて取り組んできたことなどを振り返りながら来年も頑張ることを確認することができました。

⑦ 今後の展望

令和2年以降、新型コロナウイルスによる感染拡大を防止するために様々な対策を講じてきました。事業所でもこれまで何度も陽性者が発生し、感染力の強さが脅威になっていました。今回は一堂に会しての会食はできませんでしたが、これまでの感染拡大防止に取り組んできた経験から混乱を最小限に抑えることができたと思います。

コロナ禍にあっても一年間の頑張りを評価したい、みんなで集まりたいという思いで唯一の全体行事として取り組んできたのが大忘年会です。今年度は、グループごとに実施しましたが、来年は再び全員で集まれることを願いつつ、感染防止に努めたいと思います。また今回の収穫として各グループごとでの大忘年会の在り方についても学びがありました。小グループであってもリモートで繋がることができたので、大きなスクリーンなどによる臨場感のある交流は全体集合とは違った楽しみ方があるかもしれません。大忘年会の意義を忘れず、なかまと協力し励ましながら目標を達成できるような取り組みにしていきたいと思います。



⑧ 収支報告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	飲料代	49,400	
自己資金	29,145	ケーキ代	11,174	
		プレゼント用食品	16,374	
		紙皿、コップ、装飾品等	2,420	
		プレゼント包装用品	330	
		会場キャンセル料	12,600	
		昼食（弁当代）	133,920	
		振込手数料	440	
計	179,145	計	179,145	

13 支 部 名：コルメナ

- ① 実 施 日：令和6年5月16～19日
- ② 実 施 場 所：シェアアトリエ福寿舎（高槻市城北町1-9-6）
- ③ 対 象 者：利用者、家族 約50名 一般 約150名 計 約200名
- ④ 実施概要・目的

「アート展の開催」

「ただいま！！コルメナアート展」2020年の設立10周年の記念に開催予定していたアート展が、コロナ禍の拡大に伴い中止となり、4年後の2024年に改めて当事業所の利用者の皆さんの日々作られた作品の展示会を開催した。利用者の皆さんが、日々作り続けてきた作品の魅力を多くの方に観ていただき、アート展をとおしてコルメナを知っていただきたく開催した。

⑤ 具体的内容

刺繍作品、造形作品、絵画を展示。パネル作品や刺繍小物、刺繍バッグ、オリジナルTシャツの販売。

⑥ 成 果

4日間の会期に当事業所と関わりのある方々、他の事業所の方々、お近くのお店の方、通りがかりの方が立ち寄ってくださり200名超えの方が来場してくださいました。大変喜んでいただき本当に嬉しく思いました。

⑦ 今後の展望

今後も継続して「コルメナアート展」を開催し、利用者の皆さんの作品がより認知されるよう取り組みたい。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	会場使用料	68,200	
自己資金	295,379	消耗品	34,479	
		広告宣伝費	5,420	
		通信費	13,760	
		交通費	10,420	
		日当	362,000	
		支払手数料	1,100	
計	495,379	計	495,379	

14 支部名：さらの郷

- ① 実施日：令和6年8月23日（研修会） 令和6年11月5日（非常用電源の整備）
- ② 実施場所：研修会：大阪府立障がい者交流促進センター（ファインプラザ大阪）
非常用電源の整備：さらの郷
- ③ 対象者：研修会：約50名（保護者、兄弟等 47名 職員 2名JICウエスト社員等）
非常用電源の整備：3名（理事長、他職員）

④ 実施概要・目的

「『安心安全に生活できる地域社会の実現に向けた環境づくり』に寄与するための研修会等の実施」

障がい者を有する人たちが地域で生活する上での不安要素は沢山あると思います。その中でも「親亡き後」の不安は、日々献身的に支えているご家族にとって切実な問題であり、障がい者支援における喫緊のテーマでもあります。

他方、大きな不安要素の一つとして「自然災害」があります。とりわけ災害発生時に想定される「ライフラインの寸断」は、障がい者を有する人たちの地域生活を脅かす重大な問題となります。そういった不安要素がある中で、障がい者を有する人たちが住み慣れた地域で安心安全に暮らし続けるためには、地域社会からの支援が不可欠であり、早い段階から不安を軽減する働きかけを行うことが重要であると考えます。

そのため当法人では、本事業を通じて研修会等を実施し、障がい者を有する人たちが「安心安全に生活できる地域社会の実現に向けた環境づくり」に寄与したいと願っています。

⑤ 具体的内容

(1) 研修会

「親亡き後の不安」を少しでも軽減する働きかけとして「成年後見制度」をテーマとした研修会を開催しました。当日は、経験豊富な講師をお招きし、資料「成年後見制度について～実践事例から学ぶ～」を通じて、親亡き後の成年後見制度の活用、財産管理の手続き等について大変貴重なお話を聞くことができました。

(2) 非常用電源の整備

平成30年9月4日の台風21号襲来時の教訓(生活介護事業所が停電して利用者支援は困難な状況であった)から、自然災害発生時における備えの重要性を痛感しました。そのため、停電時においても最低限の電源を確保し、グループホーム入居者への「安心」と「安全」の生活を確保できるよう非常用電源を整備することに至りました。

今回、非常用電源の試運転を実施し、配線のつなぎ方や電源本体の操作方法を実際に取り扱って確認しました。また、コンセント電源やソーラーパネル電源からの充電を確認し、その蓄電された電気を使用して家電製品の稼働も確認しました。

⑥ 成 果

(1) 研修会

今回の研修会では、成年後見制度に関する財産管理の手続きなど、これまで知らなかったことを知識として習得することができて大変勉強になる機会となりました。

(2) 非常用電源の整備

今年度より共同生活援助事業を開業しましたが、日々入居者の生活をサポートするなかで、突発的に発生する自然災害への不安がつきまといっていました。今回、本事業を通じて非常用電源の購入費用を助成していただいたことで、災害時におけるグループホーム入居者の安心・安全な生活の確保につながれると感じています。また、本事業の助成により購入した非常用電源は、ソーラーパネルが付属されたポータブル蓄電池タイプのものを整備しました。これにより、停電等で電気が途絶えた場合においても必要最低限の電源確保ができ、災害時の安心につながります。

⑦ 今後の展望

本事業を通じて勉強させていただいたことを職員に周知し、今後の支援や運営のありように活かしていければと考えております。また、今回の成果を踏まえた研修会の実施や防災の取り組みを検討すると共に、障がいをもつ人たちが「安心安全に生活できる地域社会の実現に向けた環境づくり」を少しでも前進できるように努めていきたいと思っています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	会議室使用料	8,800	
自己資金	37,988	講師謝礼	25,000	
保護者会負担	15,228	源泉所得税	2,552	
		交通費	5,000	
		資料コピー代	3,876	
		ポータブル電源	207,988	
計	253,216	計	253,216	

15 支部名：第2拓作業所

- ① 実施日：令和6年11月9日
- ② 実施場所：第2拓作業所
- ③ 対象者：利用者 62名 家族 67名 職員 67名 出演者関係 20名
後援会会員、職員家族、地域住民、支援学校関係者等 約34名
計 約250名

④ 実施概要・目的

「第16回こごせ福祉まつりの開催」

第16回こごせ福祉まつりを利用者、家族、法人関係者及び後援会の方、地域の方とともに楽しむ。法人が一つになって、交流を深める。利用者の日頃の作業所生活をお披露目する。

⑤ 具体的内容

- ・舞台発表(利用者の出し物、うた王・うた姫選手権、外部ゲスト2組)
- ・模擬店(仲間の会くじ引き、農業班物品販売、スイーツ班商品販売、たこ焼き、カレーライス、お好み焼き、フランクフルト、豚汁、フライドポテト)
- ・展示(利用者絵画、各事業所紹介パネル)

⑥ 成果

- ・利用者が祭りに向けて準備や舞台発表に向けて練習を重ねた成果を出すことができた。
- ・舞台のゲストのパフォーマンス(ダンス)を会場一体になって楽しむことができた。
- ・模擬店でいろいろなものを購入しおいしく食べることができた。また、利用者が自分たちの商品を販売する体験ができた。
- ・絵画の作品や日ごろの活動の紹介の展示を多くの家族等に見てもらうことができた。
- ・テーマ「スマイルいっぱいみんなでまつりを楽しもう!」のとおり、笑顔で一日を楽しむことができた。

⑦ 今後の展望

16回続いてきた福祉まつりを今後も、利用者、家族、職員をはじめ、地域の方や支えてくださる方々と共に楽しむことができるように、実行委員会を組み楽しい企画を考え、継続していく。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	舞台設営・出演者謝礼	72,051	
自己資金	140,288	模擬店（食材等）	114,564	
		展示、感染対策等	23,673	
計	210,288	計	210,288	

16 支 部 名：やすらぎの苑 中津

- ① 実 施 日：令和6年12月21日
- ② 実 施 場 所：やすらぎの苑 中津
- ③ 対 象 者：利用者 25名 職員 5名 計 30名
- ④ 実施概要・目的

「イベント交流会の実施」

様々なスポーツを通して交流を行う。日頃利用者と関わるスタッフも利用者の違った一面や気づきがある時間として楽しい交流会としたい。

⑤ 具体的内容

当初、スポッチャー（約50種類以上のスポーツやアミューズメントを詰め込んだ、大人から子供まで楽しめるレジャー施設）にてスポーツ交流会を予定していましたが、身体障がいの方も気軽にみんなが参加できるイベントにしようと企画をゲームイベントにしました。利用者・スタッフ30名がそれぞれグループに分かれ、自己紹介ゲームでは10分間互いに自己紹介や質問をしあってなるべく共通点を見つけグループごとで発表しました。就労ゲームでは、就労に関するクイズ3択問題で当てていくゲームで、意外と知らないこともあり、ユニークな発表もあり盛り上がりしました。最後はビンゴゲームを行い記念撮影、その後食事会を行いました。

⑥ 成 果

利用者同士、スタッフも一緒になってチームワークを大切に交流会をすることができ、よりコミュニケーション向上や利用者の違った一面も知ることができました。

⑦ 今後の展望

今後も定期的に交流の場として、このような時間も大切にしていきたいと思いました。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	景品、菓子、飲み物代	44,648	
自己資金	10,648	弁当代	36,000	
計	80,648	計	80,648	

17 支 部 名：ケアホームアピカ

① 実 施 日：令和6年12月2日

② 実 施 場 所：ケアホームアピカ 入居者居室・共同リビング

③ 対 象 者：入所者 3名 職員 2名 計 5名

④ 実施概要・目的

「台風・震災に備えてポータブル電源の購入」

南海トラフ地震情報も出され、地震も身近になったいま、ポータブル電源を使用して災害時グループホームの生活支援を継続できるようにする。実際に、入居者に、ポータブル電源から、身の回りの電化製品をつかってもらう。

⑤ 具体的内容

ホーム入居者会議を兼ねて、避難訓練を行いました。「2018年台風、グループホームが停電・復旧まで何日かかったこと」、「南海トラフ地震が起きたら、同じように停電になる?」、「困らないようにポータブル電源」、職員・入居者で話し合い、実際にポータブル電源の充電・電気の供給、入居者の方々に実際に体験してもらいました。

⑥ 成 果

2018年台風の停電・暗闇のなかで生活したこと、仕方なく実家に帰ってしまったこと・お風呂が使えないのでスーパー銭湯に行くはめになったことなど困った事例が入居者から出てきました。停電という困った経験から、入居者の方々も、ポータブル電源に興味津々の様子でした。「災害時はラジオから情報を聞かないと」「離れて住む親が心配」と、ラジカセや携帯の充電器を、ポータブル電源に繋がられました。入居者がポータブル電源を体験できた避難訓練は、いつもの避難訓練とは異なり、活気があったように感じました。

⑦ 今後の展望

少しでも災害が身近に感じられるように、入居者にも興味を持って参加してもらえのように、来年以降の避難訓練も、今年と同じように何か工夫をして開催したいと思います。災害時、慌てず・落ち着いてポータブル電源を活用できるように、使用方法をグループホームに提示しようと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	ポータブル電源	74,800	
自己資金	4,800			
計	74,800	計	74,800	

18 支 部 名：ナポレオンフィッシュ

- ① 実 施 日：令和7年3月17日
- ② 実 施 場 所：ナポレオンフィッシュ
- ③ 対 象 者：利用者 20名 支援員 6名 計 26名
- ④ 実施概要・目的

「地震に備えたラック等転倒防止の実施」

事業所内における災害対策を進めるなかで、地域的に川や海の近くであることから津波や浸水の対策は重点的に行ってきたのですが、転倒防止などの地震対策が不十分であったため実施させて頂きました。

⑤ 具体的内容

就労継続支援B型事業を行う上で、事業所内には複数のスチールラックがあるため、転倒防止用の製品を購入しそれぞれに設置しました。当初は床や壁への固定を検討しておりましたが、壁の強度の問題や床に固定する際の金具でつまずいて転倒する恐れがあることなどから、天井への突っ張り棒や、耐震用ゲルなどで対応しました。

⑥ 成 果

今回助成して頂いたことで地震が起きた際の対策を行うことができました。

⑦ 今後の展望

非常災害時等でも利用中の安全が確保できるように、また必要なサービス提供ができるよう今後も非常災害時の対策を強化させていきたいです。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	壁面固定用器具	32,556	
自己資金	16,425	天井固定用器具	51,451	
		書庫上下連結用テープ	2,418	
計	86,425	計	86,425	

19 支 部 名：支援センター中

- ① 実 施 日：令和6年11月22日 就労継続支援B型 令和7年1月24日 生活介護
- ② 実 施 場 所：神戸須磨シーワールド 萬壽殿
- ③ 対 象 者：令和6年11月22日 利用者 19名 職員 7名 計 26名
令和7年1月24日 利用者 17名 職員 10名 計 27名

④ 実施概要・目的

「社会見学旅行の実施」

・生活介護

社会見学や体験を通して新たな発見、学びなど見識を深めるとともに、団体行動で必要な時間を守ることや一人一人への思いやる気持ちを深める。また、行動を通して社会マナーやエチケットを学ぶ。

・就労継続支援B型

「自分達の旅行は、自分達で選ぶ」を目的とし、事前に利用者から希望を聞いた上、旅行会社にプラン作成を依頼する。作成した複数のプランの中から選んでもらい実施する。

⑤ 具体的内容

9時30分 集合

10時 観光バスにて支援センター中出発

11時20分 萬壽殿到着昼食

12時35分 萬壽殿出発

13時 神戸須磨シーワールド到着全体記念写真 グループ行動

14時40分 神戸須磨シーワールド発

15時50分 支援センター中解散

⑥ 成 果

萬壽殿では(中華料理)円卓で数人分を1皿で提供され、支援員が人数分を分けて小皿に
いれて提供する。事前にメニューを写真にして伝えていたことで利用者は出された物を
理解し食していた。神戸須磨シーワールドでは、事前に動物ショーがみたい人、お土産
を購入したい人など利用者の希望を確認し、グループ分けをしていたことで、各利用者
が以前より、満足した様子であった。お土産購入時、レジがセルフレジであった為、経
験したことがない方が多くセルフレジの使い方をその場で支援員がレクチャーを行っ
た。成果以外に課題が見え、歩行距離の低下、咀嚼・嚥下面での低下が見られた。今
後、当センターのプログラムにて課題改善を目的に取り組む。

⑦ 今後の展望

今後は利用者の高齢化が進む中、利用者の体力・能力を判断しながら1つでもできる体
験を積んでもらい興味の幅を広げ、それを生きがいにつなげたい。利用者の意思決定支
援を進め一人一人のニーズを大切に活動や行事、イベントをしていきたいと思いま
す。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	貸切バス代	240,900	
自己資金	359,004	通行駐車料	23,560	
大阪市福祉バス借上補助	51,500	昼食代	176,550	
		入場料	85,360	
		企画手配・旅行取扱料	34,134	
計	560,504	計	560,504	

20 支部名：集いの場 ふりーばード

- ① 実施日：令和6年10月18～20日
- ② 実施場所：イズミヤショッピングセンター千里丘
- ③ 対象者：さつき福祉会各事業所、その他吹田市各事業所関係者、地域一般市民
計 約900名

④ 実施概要・目的

「第10回 吹田ええもんフェスタの開催」〈支部協働事業〉

吹田市内全域の事業所の授産製品を一堂に集め販売する「吹田ええもんフェスタ」を開催しました。販売品目は、クッキーやせんべいなどの食品や、パンなどのデイリー商品、さをり織りや草木染製品などの小物雑貨、布巾などの日用品と多岐にわたります。売り場内にテーブル20台ほど、ハンガーラックや姿見鏡など設置し所狭しと商品を並べます。風船を大量に膨らませ会場に飾り、賑やかさを演出、お子様に風船を配ります。すいたん（吹田市のキャラクター）の着ぐるみが登場し通行人にアピール、ご購入1000円ごとにガラガラ抽選で購入の方に喜んでいただきました。販売員には事業所からスタッフや利用者が参加し、会場内の案内、買い物かごを手渡したり、商品説明しました。吹田市で唯一となる、複数の法人が参加する授産製品の販売会「吹田ええもんフェスタ」では、授産製品の販売による事業所利用者の工賃向上及び、多くの一般市民の往来のあるスーパーでの催事場で販売させていただくことにより、授産製品の認知度向上と障がい者理解の向上を目的に開催しました。

⑤ 具体的内容

2009年に16か所の障がい者事業所が集まり、吹田市内で障がいのある方の授産製品が一堂に集い、「たくさんの方に観て欲しい。知ってほしい」という思いと、障がいのある方の工賃向上の思いで、吹田市内に「HAPPY&SMILE」というお店を作りました。現在では、市内の51の事業所が会員となり、法人の垣根を超えた団体で活動を共にしています。2012年より毎年開催していた「吹田ええもんフェスタ」ですが、コロナ禍で開催が出来ず、昨年4年ぶりに復活をしました！吹田市内の障がい者福祉事業所が一丸となって企画、運営を行う、大販売会です。これまでは、自己資金と近隣の団体様や企業様、関係個人様より協賛金という形でご寄付を頂き、また催事場も無償でご提供して頂きイベントを開催していました。このご時世で場所代や備品代がかかるようになり、イベント運営は困難な状況となっていたため、助成金の申請を行いました。

⑥ 成果

吹田市内の障がい者福祉事業所が一丸となり、法人を超えた繋がりでも10回目となる「吹田ええもんフェスタ」を開催しました。開催に向けて、チラシの作成を行い、様々な団体や個人宅への配布を行いました。配布を通して多くの方へ今回のイベントのことを知って頂き、障がい者理解にも繋がったと感じています。今年度は、初めての3日間の開催となりましたが、平日にも関わらず沢山のお客様が足を運んで下さり、多くの授産製品の販売に繋がりました。3日間を通して、約900名のお客様が来て下さり、売り上げも

過去最高額に達しました。各事業所では授産製品の製造に力を入れ、当日の要員などにも携わり、皆で力を合わせて頑張った結果だと感じています。複数のお客様から「今年も買いに来たよ」「これ使っているよ」「食べておいしかったよ」などお声かけいただき、「吹田ええもんフェスタ」や授産製品が認知されているように感じました。

⑦ 今後の展望

「吹田ええもんフェスタ」の継続開催と、売り上げ目標100万円をさらに伸ばせたらと思います。継続開催により地域の方に授産製品を身近に感じていただだけ、売上が伸びると「ええもんフェスタに出品すれば売れる！」といろんな事業所・利用者に感じてもらえたら、このイベントに向け授産製品作りを頑張ろうなどのモチベーションの向上になると考えるからです。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	チラシ印刷代	110,000	
自己資金	32,807	景品代	10,000	
		装飾代	3,423	
		陳列カゴ代	4,631	
		風船代	16,500	
		会場費	77,000	
		雑費	11,253	
計	232,807	計	232,807	

2 1 支 部 名：ふれあいの里かたくら

- ① 実 施 日：令和7年2月25日
- ② 実 施 場 所：ふれあいの里かたくら
- ③ 対 象 者：利用者 約80名
- ④ 実施概要・目的

「災害時避難用テントの購入」

災害用備品の整備

⑤ 具体的内容

災害時に着替えや排せつ等支援を行なう場合、プライバシーに配慮して目隠し（カーテン）ができる空間が必要であり、重症心身障がい者が通う施設では、特に着替えや排せつ等の支援が多いため、このようなワンタッチ型のタープテントが重要になってきます。災害時でも利用者が安全に衛生的に過ごせる空間を保障することができます。

⑥ 成 果

ワンタッチタイプのテントなので設営が楽に行なえる。重量も約 21 kg で持ち運びも比較的しやすい。

⑦ 今後の展望

今後とも災害時に必要なものは何か、これからも職員間で話し合い、利用者が災害時でも安心して過ごせるよう備品等の整備を行なっていきます。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	シェルターテント	127,600	
自己資金	57,600			
計	127,600	計	127,600	

2 2 支 部 名：今林の里

① 実 施 日：令和6年11月10日

② 実 施 場 所：今林の里

③ 対 象 者：入所利用者 42名 通所利用者 23名 家族 約25名 地域住民 約100名
法人関係利用者 約30名 職員 約30名 計 約250名

④ 実施概要・目的

「イベント（さとまつり）の開催」

舞台発表・屋台・展示発表・自主製品の販売。

毎年実施してきた「さとまつり」をイベントとして実施しました。

従来の取り組みに戻し、地域交流を目的として実施しました。

⑤ 具体的内容

- ・舞台発表【マジックショー2組、ハーモニカ演奏】
- ・屋台【唐揚げ・たいやき・カレー・そばめし・ドリンク】
- ・自主製品販売【法人内事業所より陶芸作品マグネット・木工作品など販売】
- ・展示発表【法人内事業所の利用者作品をブース展示を行った】

⑥ 成 果

コロナ後、久々の地域へ開放しての取り組みで告知も大きくはしませんでした但予想よりも多く、地域の方も来場してくださいました。利用者、その家族も屋台や舞台と楽しそうにしている様子も見られました。

⑦ 今後の展望

来年度も開催していきたいと考えていますが、地域の方への告知なども広く行い以前のような「さとまつり」を開催できるようにしていきたいと考えています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	広報	12,870	
自己資金	351,657	会場設営	65,990	
		模擬店	367,675	
		ボランティア	10,122	
		舞台	45,000	
計	501,657	計	501,657	

23 支 部 名：あいらぶ工房

- ① 実 施 日：令和6年12月22日
- ② 実 施 場 所：あいらぶ工房
- ③ 対 象 者：利用者、職員 計 58名
- ④ 実施概要・目的

「2024年度作業お疲れさま会の開催」

一年を振り返りお互いに作業の頑張りを労う。また、家族や日頃支えてくださって

るボランティアの皆さんとの交流の場とする。あいらぶ工房は生活介護と就労継続B型の多機能型施設であり、それぞれお互いの作業の様子は分からない。加えてコロナ流行以後全体で取り組む行事が減ったため、生活介護のなかまと就労継続支援B型のなかまが触れ合う機会が減った。一年のまとめとして共に一年の頑張りを労い、讃え合う交流の一日とする。

⑤ 具体的内容

- ・ ひまわり班、サンライズ班(生活介護)、ほほえみ班、パン班(就労継続支援B型)の4つの班がそれぞれの作業内容をパワーポイントや絵など工夫して自分たちの表現で紹介、また頑張ったことを自身のことばで報告。
- ・ 久しぶりの全体行事として、全員でカーリングやクイズ等のレクリエーションも楽しんだ。
- ・ 一年を労う一日として、いつもの給食より少し豪華な食事も準備した。

⑥ 成 果

他の班の作業内容に関心を持ったり、頑張りに感心したりとお互いを称え労わりあう姿が見られました。

また、久しぶりの全体行事！ レクリエーションではお互いを支えあい、みんな一緒に楽しむことができました。家族の参加もあり、なかまも家族も「やっぱりみんな一緒がいいね」と笑顔が増えていました。

いつもと同じ食堂でも内容が違えば雰囲気は変わるようで、嬉しくて早く食べてしまうなかまや、逆に交流に夢中でいつもより時間がかかってしまうなかまもいたり、食事時間も楽しく交流ができました。

⑦ 今後の展望

コロナ禍で全体行事や宿泊行事が数年ストップしていたので、全体行事という大きな規模になかまも職員も初めは少し戸惑いもありました。全体行事の経験が無い職員もいて、職員の力量が試された行事でもありました。

この行事での経験を糧に、今後は外出や宿泊を伴う行事・企画も少しずつ増やして、近い将来はなかまの希望である一泊研修旅行を復活させたいと考えています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	模擬店準備	1,560	
自己資金	43,248	交流昼食代	40,600	
		レクリエーション	5,992	
		発表企画代	17,596	
		発表用コンパクトカメラ	32,142	
		広報、案内印刷・送付代	9,875	
		除菌用品・食器等	5,483	
計	113,248	計	113,248	

2 4 支 部 名：ういず守口

- ① 実 施 日：令和6年12月26日
- ② 実 施 場 所：神戸フルーツフラワーパーク
- ③ 対 象 者：利用者 24名 職員 13名 計 37名
- ④ 実施概要・目的

「メンバー宿泊旅行の実施」

利用者旅行の実施(生活介護だけではなく、就労系の事業も一緒に事業所のメンバーみんなで宴会を楽しむ。)利用者同士の慰労・懇親、仲間づくりが目的。

⑤ 具体的内容

今年度に入りメンバー旅行委員さん達と会議をする中で、「どこに行くかが大切ではなく、誰と何をするのか」を大切にメンバー旅行を考えていきたいと共有しました。コロナの期間、旅行ができなかった事で宿泊経験のない職員が多いため、コロナ禍が明けたここ2年も安全面と管理を最重要視した場所を職員主導で選んできました。しかし、今年はメンバーさんから「もう同じ場所はいや。事業所全体のメンバーで宴会がしたい」と声が上がり、就労系のメンバーさん達とも会議を重ね、みんなで「大宴会」をすることができました。

⑥ 成 果

今年度もメンバー全員の笑顔とたくさんの思い出を皆で共有することができました。重度な知的障がいを持つメンバー達にとって、年1回のこの行事は大きな意義があり、社会参加の機会を得ることができました。

当日までの準備の中で、「利用者主体の取り組みとは」を職員・メンバー共に積み重ねてこれたと思います。

又、来年の旅行の話がメンバーから出ているところで、日々の仕事のモチベーションにも繋がっています。

⑦ 今後の展望

今後も利用者・職員共経験を積んで行き、メンバー主体での宿泊行事に取り組みながら社会参加を目指していきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	バス代	184,800	
自己資金	671,816	宿泊費	573,870	
		入湯税	5,550	
		昼食代	77,760	
		おやつ代	5,376	
		バス高速料金	16,430	
		バス手配料	5,280	
		旅行社企画手数料	2,750	
計	871,816	計	871,816	

2 5 支 部 名 : 桜の園

① 実 施 日 : 生活介護事業前半: 9月5～6日 生活介護事業所後半: 9月10～11日

② 実 施 場 所 : 京都府:嵐山、滋賀県:ブルーメの丘

③ 対 象 者 : 利用者 32名 職員 19名 計 51名

④ 実施概要・目的

「利用者宿泊旅行の実施」

障がい当事者の日々の活動の慰労となるように。またこれからの生活の活力となるようにを目的に実施。

⑤ 具体的内容

今年度は昨年度に引き続き一泊旅行を開催できました。昨年度の旅行を利用者も職員も思い出しながら今年度も前半、後半に分かれて特に大きなアクシデントもなく一日目は京都:嵐山に行き昼食、観光をしてからホテルでの宿泊、二日目のブルーメの丘でのふれあい体験や散策を通じて普段とは違う利用者の姿やとても楽しんでおられる姿を見ることができました。

⑥ 成 果

今回の旅行では嵐山での観光、散策をグループ単位で行うことで準備段階からグループごとに何を見に行くのか、何を食べに行きたいのか等利用者の意見を聞きながら予定を組み立てていきました。

二日目のブルーメの丘では利用者の方にカメラを渡してお題に沿って写真を撮ってもらうことでより楽しい記憶が残ったのではないかと思います。帰ってきてからもその写真でコンテストを開催し、より一層チーム活動での成果となったのではないかと思います。

⑦ 今後の展望

今後この旅行でのチーム活動の経験を活かし、地域との交流や行事等で意見を出したり活躍してもらい利用者主体の活動を進めていきたいと思っています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	旅行代金 (前半)	1,041,480	
自己資金	1,991,345	旅行代金 (後半)	1,109,565	
		キャンセル料	40,300	
計	2,191,345	計	2,191,345	

2.6 支 部 名：ビジネスプランニングセンター

- ① 実 施 日：令和7年3月20日
- ② 実 施 場 所：当事業所内
- ③ 対 象 者：利用者 5名 職員 2名 計 7名
- ④ 実施概要・目的

「作業工賃アップの為にYouTubeクリエイター&ブロガー養成講座の実施」

利用者及びスタッフの技術・スキルの向上。

特に、新規事業として開始予定のYouTube動画制作およびブログ等の連動発信に対応できる人材の育成。

⑤ 具体的内容

プロダクトローンチ（新商品や新サービスを市場に投入する際に用いる、計画的かつ戦略的なマーケティング手法）専門の外部企業から講師を招聘し、以下の内容について講演会を実施した。

- 1) 効果的な動画作成方法
- 2) ブログやホームページの記事作成技術（適切な言葉選び、コピーライティング）
- 3) デザイン技術

⑥ 成果

動画に基づくインタビューから、ブログ記事、そしてインスタグラムのようなSNS記事に文章を展開させる方法を学び、YouTubeの動画作りとソフトウェア選びや編集技術を習得することができた。

⑦ 今後の展望

習得した技術を多くのスタッフとトレーニングすることにより、当社内にノウハウを蓄積させ、より高品質なオンラインコンテンツ作りに応用できるように、社内の協業体制を築いていきたい。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉 (円) 〈支出〉

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	外部講師招聘費用	110,000
自己資金	40,000		
計	110,000	計	110,000

27 支 部 名：豊里学園

- ① 実 施 日：令和7年2月24日
- ② 実 施 場 所：豊里学園
- ③ 対 象 者：利用者 57名 職員 10名 計 67名
- ④ 実施概要・目的

「非常用ポータブル電源の購入と避難訓練の実施」

災害時において、速やかに避難できるように避難訓練を実施。また避難後、最低限の通信手段確保の為、電源の確保を実施すること。

⑤ 具体的内容

あらかじめ充電しておいたポータブル電源を設置。避難訓練実施後、安全確保をした後に、ポータブル電源に学園内用の子機、外部用スマートホン、ノートパソコン1台を充電。

⑥ 成 果

避難訓練は毎月実施しているので、比較的スムーズに実施することができました。ポータブル電源は重量があるので、持っでの移動はできなくはありませんが、置き場所については検討が必要と感じました。子どもたちは、いつもと少し違う避難訓練に、興味深々な様子でした。

⑦ 今後の展望

今回の避難訓練を経験し、まずは水害なのか地震なのかで避難の仕方が変わるので、それぞれに対応できる位置に普段からポータブル電源を置いておく必要があると感じました。かつ災害時には人命が優先なので、食料もそうですが、改めて優先順位を考えて行動できるようにしておく必要があります。

夜間の照明についても懐中電灯が主にはなりますが、照明にも最低限の電力が必要になってくるという声も上がりました。また、ソーラーパネルを使用したとしても、ポータブル電源1台では電力が足りなくなることも予測できるので、次年度はもう1台購入しそれぞれの生活フロアに1台ずつ置くことができるようにしたいと考えます。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	ポータブル電源	87,300	
自己資金	17,300	(ソーラーパネルセット)		
計	87,300	計	87,300	

28 支 部 名：新星

- ① 実 施 日：令和7年3月1日
- ② 実 施 場 所：東大阪市立男女共同参画センター イコーラムホール
- ③ 対 象 者：障がい者本人、支援者、保護者 計 51名
- ④ 実施概要・目的

「障がい児者を育てる保護者や支援者のための講演会の開催」

「畠山織恵氏講演会」の開催。講師の畠山織恵さんの長男、亮夏さんは重度の脳性麻痺の障がいがあり、歩くことや話すことができません。「動けない・話せない」の価値を変え、亮夏さんは社長や大学の講師になりました。亮夏さんは毎年チャレンジをし、自分に自信をつけていくことができました。現在は一人暮らしに挑戦しています。親がサポートできることに限りはありますが、幼少期に積んでいく経験や挑戦は大人になっていく過程で大きな力になります。親子で挑戦し、そのプロセスを経験することの大切さ、講演者による力強い経験談は現在障がい児者を育てる保護者や障がい児者を支援する人たちにとって、明日への力となり、自信を持って自分の道を歩んでいけることを期待し、この企画を遂行しました。

⑤ 具体的内容

講師に畠山織恵さんをお呼びし、イコーラムホールにて講演会「自分を諦めない」をテーマに開催しました。

⑥ 成 果

子育てに答えがなく、「これをこうしたら結果こうなる」というものはありませんし、日々これが正しいのか間違っているのか、良いのか悪いのか親はまさに自問自答の繰り返しです。障がい児者を育てる子育てや支援もまさにそうでしょう。親子で挑戦し続け、そのプロセスを経験してきた講演者の言葉は多くの保護者や支援者を勇気づけたことと思います。

⑦ 今後の展望

講演の参加者より、今回の講演者「畠山織恵氏」の話をもっと多くの障がい児者に関わる人に届けたいという思いが募り、主催をしてみたいとの声がありました。また、自分を諦めず、新しいことへの挑戦をしていくことなど、それぞれにとって人生の転機になったという声が多くありました。今後も障がい児者やその支援者、家族がそれぞれの立場を大切にしながら堂々と歩める社会に向けて、当法人にできることを探していきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	講師謝礼	230,000	
自己資金	75,284	食事代	6,600	
参加費2,000×52人	104,000	駐車場代	12,684	
計	249,284	計	249,284	

2 9 支 部 名：守口障害者支援センターひだまり

① 実 施 日：令和6年6月7日

② 実 施 場 所：ホテル北野プラザ六甲荘、神戸どうぶつ王国

③ 対 象 者：利用者 27名 利用者家族 16名 職員 19名 計 62名

④ 実施概要・目的

「日帰り研修旅行の実施」

利用者の社会参加とリフレッシュ、利用者家族との職員の交流

⑤ 具体的内容

コロナが第5類になり、利用者、家族からのご要望も多かった日帰り研修旅行を5年ぶりに実施しました。

車椅子の利用者が多いため、大型のリフトバス2台を貸し切り、神戸に行きました。北野坂近くのホテル北野プラザ六甲荘では、食事の加工(ペースト刻み食)にも対応していただき、洋食のランチコースを堪能しました。神戸どうぶつ王国では、広い園内を自由に観覧し、めずらしい動物やかわいい動物を見たり触れあったり、お土産を選んだりと盛りだくさんの一日となりました。

⑥ 成 果

利用者、家族からは楽しかった、食事も美味しかったというお声をいただき、何よりも、いつもよりいい表情をされている利用者も多く、楽しまれているのが伝わってきて実施できてよかったと実感しました。

また支援員にとっては、家族と利用者についての情報共有をするなど交流ができたり、外出先でその場にある資源で介助を行うなどの経験をすることで、スキルアップになったと思います。

⑦ 今後の展望

コロナ禍で入職した職員も多く、経験者が少ないという状況の中、事前に下見や旅行会社、ホテルとの打ち合わせを重ね、職員全体に周知を行うことで無事に終えることができましたが、反省も多くありました。

今回の反省を生かして、利用者・利用者家族の希望や意見を取り入れながら、年間行事の一つとして来年も日帰り研修旅行を実施したいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	貸切バス代	479,600	
自己資金	345,860	高速・駐車代	21,180	
利用者負担金	135,000	昼食代	142,600	
家族負担金	80,000	休憩部屋代	9,680	
		乗務員・添乗員代	5,500	
		入園料	68,200	
		企画手配・旅行取扱料	34,100	
計	760,860	計	760,860	

30 支 部 名 : ととろプラス

- ① 実 施 日 : 令和6年12月20日
- ② 実 施 場 所 : チャレンジ型事業所ととろプラス
- ③ 対 象 者 : 利用者 16名 職員 5名 関係機関 5名 計 26名
- ④ 実施概要・目的

「チャレンジド・ネットいずみ創立20周年記念イベントの開催」

利用者が中心となり法人創立記念イベントを企画・運営することやノベルティを充実することで利用者にとっての経験や楽しみになると共に、地域と繋がり障がい理解啓発となるような活動の一環としていきたい。

⑤ 具体的内容

- 10:30 飾り付け、食事の盛り付け
- 12:00 食事会
- 13:00 T-1 グランプリ (利用者・職員による一芸大会)
- 14:00 ビンゴ大会、記念品贈呈

⑥ 成 果

記念品は何が良いのかを予算から考え、デザインは利用者から募り採用しました。
自分で考え、みんなで会議の場にて意見を聞いて発言するという場になっています。

前年度、好評であったビンゴ大会の景品については、事前に調査することも取り入れました。イベントが継続化され、振り返って改善策を考えるなどができています。

当事業の「就労継続支援B型」は地域協働という形式であり、生産活動だけでなく地域と協力した活動をしており、工賃はそこまで高くない中、この助成金をいただけることで充実した内容になり、利用者も参加しやすくなっています。

⑦ 今後の展望

イベントを施設内だけで完結するのではなく、社会参加していくような企画にしていきたいと考えています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	食費	13,112	
自己資金	24,935	ビンゴ景品代	14,937	
		記念品代	64,680	
		食器・装飾代	2,206	
計	94,935	計	94,935	

3 1 支 部 名：ケアスペースつむぎ

① 実 施 日：令和6年11月11日

② 実 施 場 所：ケアスペースつむぎ

③ 対 象 者：利用者 11名 職員 11名 来賓 3名 家族 2名 計 27名

④ 実施概要・目的

「10周年記念と閉所に伴う感謝祭行事の開催」

ケアスペースつむぎの創立10周年を祝う、昼食会と式典の開催、記念品の作成を行う。閉所に伴い、感謝祭を開催。

⑤ 具体的内容

・10周年記念昼食会では、お寿司屋さんに出張してもらい、皆さんの目の前で新鮮なお寿司を握ってもらう。

- ・10周年記念式典では、10年の歩みのスライドショー・祝辞動画・利用者・家族・来賓からのお祝い、閉所に合わせた発表・茶話会を行う。
- ・10周年を記念して、 ミニタオル・マグカップ・エコバックの作成を行う。

⑥ 成 果

家族と来賓の方々を招いて、記念事業を開催。昼食会では、利用者からお寿司が食べたいとリクエストがあり、出張お寿司屋さんに来ていただいて目の前で新鮮なお寿司を握ってもらった。食べ終わると、ご自身でお寿司屋さんの大将に注文をして、食べたいお寿司を食べられていた。利用者、家族、来賓の方々に大好評であった。

記念式典では、2014年創立から10年間のスライドショーを作成し、視聴を行った。行事や活動を振り返る中で、これまでの軌跡を思い出すように鑑賞をされていたのが印象的であった。時代の経過とともに利用者の変化も見られ楽しまれている様子であった。

創立当初を知っている職員が少なくなっている状況で、創立までの苦労や想いなど、原点に立ち返ることができ、いい機会となった。昔在籍されていた職員からの祝辞も利用者の皆さんは喜ばれていた。この様なイベントが開催できたのは、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会の助成事業のおかげです。ありがとうございました。

⑦ 今後の展望

ケアスペースつむぎが閉所となることに伴い、利用者の皆さんは各事業所に異動となる為、どこかで同窓会ができればと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	昼食会	100,000	
自己資金	99,640	記念品代	69,640	
計	169,640	計	169,640	

3 2 支 部 名：ワークセンター小路

- ① 実 施 日：令和6年11月2日
- ② 実 施 場 所：ワークセンター小路

③ 対 象 者：利用者 37名 職員 40名 家族 30名 地域住民 100名 計 207名

④ 実施概要・目的

「あきまつりの開催」

ワークセンター小路では2001年の開所以来、施設および施設裏の小路中央公園にて地域の方及び利用者、家族との交流を深めるために「あきまつり」を開催してきました。コロナ禍においては、地域の方を招かず、利用者、職員、家族と限定しての開催を行ってきました。また、コロナ禍の5年の間に施設周辺の土地開発もあり住宅地、スーパーなどの店舗の開店もあり、人通りも増え、よりたくさんの方に施設を知っていただくきっかけだけでなく、たくさんの方との交流を深めたいと思い企画、実施しました。

⑤ 具体的内容

- ・施設の所庭にて、キッチンカー(ロコモコ)、ポップコーン、フランクフルト、焼き鳥を出店しました。
- ・1F紙漉き班の作業室及び施設の職員用駐車場をテラススペースとして、市内障害者就労継続支援B型事業所わかばコーヒー研究所さんに喫茶コーナーを出店していただきました。
- ・1F木工班の作業室を休憩スペースにして、レモネード飲料の販売で病院や、小児がん支援の関連施設に寄付を行う 5e lovers さんに出店いただき、ワニワニパニックのゲームも行いました。
- ・1F食堂を舞台として浦田博信さん(ウクレレ、ギター弾き語り)、大丸翔太朗さん(ギター弾き語り)、ぷちみるくさん(バンド)のゲストを迎え演奏をしていただきました。
- ・2F手織り班の作業室を休憩スペースにして、軽作業班の作業室では蜘蛛の巣飛ばし、ポンポットンのゲームを行いました。
- ・2F和室では、ワークセンター小路各作業班で作った自主製品の販売を行いました。

⑥ 成 果

季節外れの台風 22 号の影響で前日から激しい雨に見舞われ、開催の是非を考える程でした。当日は雨の中での開催を余儀なくされ、施設内での舞台やゲームコーナーを設置することに変更して開催しました。開催前から地域にチラシを配布していたことやインスタグラム等で告知を行ったこともあり、荒天の中でしたが多くの地域の方に来所いただくことができました。久しぶりにあきまつりの開催を懐かしむ方、始めて施設に来所された方、一同に舞台を観覧いただき、大きな歓声や拍手で盛り上がりました。

キッチンカーは一際目を引き、お昼時には、長蛇の列となりました。今回のあきまつりの目玉となり、沢山の来客をいただく一助になったと思います。午後から大雨となりゲストの出演のキャンセルもあり、急遽利用者さんのカラオケ大会を実施しました。地

域の方、ご家族の方には利用者の楽しむ様子や作業風景のパネル、自主製品の販売を通じてとてもよい交流の場となりました。また、舞台出演ゲスト、喫茶、販売等でたくさん出演者や事業所の方との繋がりも実感することができました。

⑦ 今後の展望

今後も、継続して同時期にあきまつりを開催して、利用者、家族、地域の方が共に楽しめるイベントとして定着できるようにしていきたいと思います。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	キッチンカー	191,000	
自己資金	86,703	ゲスト出演料	25,000	
		宣伝費	4,499	
		装飾費	10,517	
		模擬店	40,300	
		その他、備品	15,387	
計	286,703	計	286,703	

3.3 支 部 名：ふれいすB e

① 実 施 日：令和6年10月28日～11月2日

② 実 施 場 所：杉の子農園 はにわキッチン@caféB e

③ 対 象 者：杉の子農園 利用者 86名 職員 64名 計 130名

はにわキッチン@caféB e 利用者 4名 職員 8名 地域住民 約110名 計 約120名

④ 実施概要・目的

「杉の子農園収穫祭・子ども食堂の開催」

収穫祭では、事前に芋ほりをしてもらい当日は焼き芋を農園で食べていただき、収穫の楽しみを感じる。自然の中で過ごす。はにわキッチン@caféB eでは、収穫祭の一環として「こども食堂」「地域貢献」「地域交流」を目的とし、収穫物を使ったカレーライス、ホットドッグを各100円で各100食準備して、地域の方に楽しんでもらえるイベントにする。

⑤ 具体的内容

収穫祭：10月28日～11月1日

10時 現場準備

10:30より順次利用者、職員で農園に行く。

農園に来たら、焼いも、飲み物をもらい食べる。

時間がある方は収穫体験も行う。

14:30頃 終了

はにわキッチン@caféB e：11月2日

9:30 職員、利用者集合準備

10:30から14:30はにわキッチンを開催、カレーライス、ホットドッグを提供。

利用者の作品展示を行う。

⑥ 成 果

収穫祭では、ご利用者も楽しみにされており、普段あまり食事をとられない方も焼いもを食べてもらえることがあった。

また@caféB eで行った「はにわキッチン」では地域の方、法人関係者等120名程度に来ていただけた。地域の交流、啓発につなげることができた。

⑦ 今後の展望

天気が不安定なため、利用者の変更があったが、おおむね予定通り参加でき多くの方に来場していただけた。収穫の時期を見ながら定期的開催を行っていきたい。今後も定期的イベントにしていくため、人員の確保、プログラム内容の充実を検討していきたい。メンバーそれぞれが楽しんでおられました。普段は関わりが少ないメンバーとスタッフが関わったり、スタッフ同士の交流も図ることができました。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	125,519	焼き芋器レンタル代	33,000	
自己資金	19,300	会場費	15,000	
		飲み物代	25,452	
		カレー調理	44,787	
		ちらし印刷	3,210	
		食器等備品	2,191	
		食材料費	1,641	
		会場整備	18,084	
		雑費	1,454	
計	144,819	計	144,819	

3 4 支 部 名：クッキー工房 おれんじはうす

- ① 実 施 日：令和6年10月3～4日
- ② 実 施 場 所：日和山温泉・城崎マリンワールド
- ③ 対 象 者：利用者 18名 職員 7名 計 25名
- ④ 実施概要・目的

「社会体験一泊旅行の実施」

日頃、仕事（作業）が忙しく、利用者間、職員となかなか交流ができない。利用者と職員が同じ目的を持ち、集団行動することの大切さを感じ、絆を深めることを目的に実施。

- ⑤ 具体的内容
 - ・ホテルでの大浴場で皆で入浴。宴会
 - ・城崎マリンワールドでのグループ別見学・全体見学
 - ・バス内でのビンゴ大会・カラオケの実施

⑥ 成 果

目的であった利用者間、職員との絆がこの旅行を通じてより深まりました。また参加者は皆とても楽しんでいた。

⑦ 今後の展望

今後も、1年に1回は、利用者と職員が交流できるようなイベントを実施していきたい。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	交通費（バス代等）	296,760	
自己資金	799,260	宿泊費	471,250	
		食事代	41,250	
		施設使用料	35,000	
		諸費用	25,000	
計	869,260	計	869,260	

3 5 支 部 名 : 蓮

- ① 実 施 日 : 令和7年3月27日
- ② 実 施 場 所 : 和歌山マリーナシティ
- ③ 対 象 者 : 利用者 12名 職員 11名 計 23名
- ④ 実施概要・目的

「法人旅行（日帰り）の実施」

メンバーの慰労。メンバーやスタッフの交流。非日常の体験。

⑤ 具体的内容

観光バスに乗り和歌山マリーナシティに行きました。事前に現地での楽しみ方のアンケートを取りました。結果、黒潮市場で食べ歩き、黒潮温泉に入る、ポルトヨーロッパで遊ぶ、の案が出ました。メンバーそれぞれが選ばれた場所で楽しめることになりました。もちろん現地で変更も可能。時間内であれば2か所3か所に行っても可としました。美味しいものをたくさん召し上がられたり、温泉でゆっくりされたり、ポルトヨーロッパで遊んだりメンバーの方もスタッフも楽しませていました。

⑥ 成 果

メンバーそれぞれが楽しんでおられました。普段は関わりが少ないメンバーとスタッフが関わったり、スタッフ同士の交流もはかれる事が出来ました。

⑦ 今後の展望

日帰り旅行は、コロナ禍から実施するようになり今回で5度目になります。以前は宿泊の旅行のみでした。一昨年度から宿泊と日帰りを選べるようになりました。日帰り旅行の需要も回を重ねるたびに高まっています。しかしながら選択が難しいメンバーもおられます。メンバーそれぞれのニーズに沿った企画、メンバー自らが企画にもっと参加できるような環境作りを目指したいです。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	バス代 大型リフト車	248,500	
自己資金	124,700	高速料金	12,900	
		旅行傷害保険	2,300	
		企画料	5,500	
		手数料	5,500	
計	274,700	計	274,700	

3 6 支 部 名：ぶくぶく福祉会

- ① 実 施 日：令和6年10月12～13日
- ② 実 施 場 所：なら100年会館、ホテル日航奈良、奈良県コンベンションセンター
- ③ 対 象 者：利用者 7名 職員 5名 計 12名
- ④ 実施概要・目的

「ピープルファースト大会への参加」

ピープルファースト大会in奈良への参加。ピープルファーストとは、1973年アメリカのオレゴン州で知的障害のある当事者が「ちえおくれ」や「知的障害者」とレッテルを貼られるのがどんなに嫌か、という事を話し合い「私たちは障害者である前に人間だ！

〈People First〉」と発言したことがきっかけで始まりました。「自分たちのことは、自分たちで決める」という、『自己決定』からはじまった当事者の権利を求める運動。

日本では、当事者たちの思いを発信したり話し合ったりする場として毎年ピープルファースト大会が開催されています。今年は奈良県で開催されました。

⑤ 具体的内容

奈良県での開催ということで、参加希望者は泊りがけで大会へ参加することとなりました。公共交通機関での移動では利用者さんへの負担が大きいため、マイクロバスをチャーターし奈良県へ向かいました。2日間かけて行われるピープルファースト大会へ連日参加、同じ当事者の思いを聞いたり、自分の思いを発表したりしました。夜には交流会

へ参加。食事をしながら他府県の当事者の方々と交流を深めました。大会後は少し奈良観光もしました。

⑥ 成 果

日帰りではなく泊りがけでの参加ということで、余裕を持ったスケジュールで大会に参加することができ、利用者さんも万全の状態で開催に臨むことができました。また、夜の交流会は実費で参加するには少し高額なので参加したい気持ちはあっても断念される利用者さんが多かったのですが、今年は助成していただいたおかげで参加することができました。名刺交換をしながら他府県の方と交流し、食事を楽しみました。なかなか利用している事業所以外の方と交流する機会やバイキングパーティーのようなものに参加することはないため、利用者さんにとってとても良い機会になったと思います。

職員についてもたくさんの支援者や障がいのある方と交流する機会になり、色々学ぶことがあったと思います。

⑦ 今後の展望

来年の開催場所は神奈川県とのこと。日帰りでの参加は難しく、前のりする必要があるかもしれません。今回は奈良県と同じ近畿圏内での泊りでしたが、初めて泊りがけで大会に参加する利用者や職員が多く、来年に向けてよい経験になったと思います。今回の宿泊の経験を活かし、来年の神奈川県大会も泊りがけでの参加にチャレンジできればと思っています。



⑧ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	200,000	バスチャーター費	99,000	
自己資金	31,000	大会参加費	132,000	
計	231,000	計	231,000	

Ⅱ 資 料

○令和 6 年度支部活動等助成事業実施要項

○令和 6 年度支部活動等助成事業実施支部一覧

○大阪生活サポート協会事業の理念と概要

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会 令和6(2024)年度 支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、「大阪生活サポート協会」という。)定款に則り、知的障がい児者・発達障がい児者(以下「障がい児者」という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(「生活サポート総合補償制度」に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、「支部」という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 地域(地区ブロック内)の複数の支部が、或いは複数の地区ブロックが協働して行う事業
〔例：利用者参加型余暇支援活動、支援者や家族対象研修会、グループホーム世話人研修会など〕
 - (8) 防災に関する事業
防災に関する研修等
 - (9) 家族(保護者会・家族会等)と協働で行う家族支援活動〔例：家族対象の研修会・催し物の開催〕に関する事業 ※助成申請は支部を通じて行うこと
 - (10) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

5. 選考に際しては、次の各項を勘案します。
 - (1) 支部等の備品購入、補修、改修等に関する費用は、原則として助成対象としない。
 - (2) 新規申請支部を優先する。
 - (3) 緊急性が高いと判断される事業
 - (4) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
 - (5) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)

(助成対象期間)

6. 令和6年4月1日から令和7(2025)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、事業内容・参加人数等を考慮する。会員5人以下：7万円、6人～10人まで：15万円、10人以上：20万円を上限とする。
 - (2) コンサルテーション事業については、1支部15万円を上限とする。
 - (3) 下記に示す地区ブロック内の複数の支部が協働事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を

考慮し、30万円を上限とする。

(4)複数の地区ブロックが協働事業を実施する場合は、40万円を上限とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。

※ (3)(4)については、大阪生活サポート協会の協賛事業とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

- (1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)
- (2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和7(2025)年3月中に事業実施した場合は、同年4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。
- (3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。
- (4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページのお知らせ・事業ページ〈支部活動等助成事業〉に掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。

- (1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めたときは、原則令和7(2025)年3月末までに指定の口座に振り込むこととする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の申し込み期日は、令和6(2024)年8月末日までとする。(当日消印有効。)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。

- (1) 複数の支部或いは複数のブロックの協働事業の場合は、大阪生活サポート協会の「**協賛事業**」とし、単一の支部で事業実施の場合は「**助成を受けている**」とし、その旨をホームページ上、配布物や行事案内に明示すること。

なお、事業実施後に大阪生活サポート協会へ提出する報告書には明示されている状況を確認できるもの(配布物、写真等)を添付すること。

- (2) 大阪生活サポート協会との「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けている**」旨を明示しない場合は、助成しないものとする。
- (3) 助成対象事業は、令和6年4月以降の事業を助成対象とするが、助成決定時すでに実施済みの場合は、助成後事業所等の発行する機関紙等で、「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けた**」ことを広報するとともに、当該年度の事業報告書にもその旨を明示することとする。

附則 令和6年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会

〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F

TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988

E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
令和6年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 事 業 概 要
1	ろ (社福) 路交館	う ういず滝井	70,000	70,000	2	「利用者宿泊旅行の実施」 旅行実施までは、行き先、雨天の場合どうするか、何を食べたいかなど、色々な事柄を利用者会議で決定した。旅行までの過程を大切にし、自分たちで計画し進めていくことで、自信に繋げることができた。行き先が決まったら仕事の間にも各チームの宴会の練習に熱が入り、当日の朝まで職員・メンバー共にドキドキして迎えた。旅行が終わる、振り返りを行い「また来年もいきたい！」と多数から声が上がった。今後も、仕事や行事に追われながらも利用者自らが決めていける支援(当事者主体)を目指していきたい。
2	し (社福) 大阪手をつなぐ 育成会	支援センター し ねぎぼうず	150,000	150,000	8	「利用者日帰り旅行の実施」 社会見学や体験を通して人々と交流し、物づくりや食文化、漫画やアニメの歴史・大切さを学び見聞を深めると共に、買い物や屋食を通じて社会マナーやエチケットを学ぶために実施した。ミッドミュージムではミッドの歴史等を学び、自分でトッピングをする体験をした。屋食のピュッフェでは「自分の食べられる量だけとる」こともできるように、他の客にも迷惑をかけずに食べることができた。手塚治虫記念館では、アニメの歴史など楽しみながら学べた。また、今回の1つのテーマであった「家族の絆を深める」ことも6名の家族の参加をいただくことができた。高齢になり家族での旅行が困難な方や、利用者がグループホームに入居し、会う機会が減っている方も短い時間であったが、一緒に過ごし思い出が作れたと好評であった。
3	あ (株) アシスト	ば 生活介護ばずる	70,000	70,000	2	「非常用発電機の購入」 地震や停電時などの緊急時に備え、施設が閉所中に使用可能な可搬型蓄電池を購入した。管理者と職員で災害時を想定し、購入機器を実際に使用し、取り扱い方や使用方法の習得ができた。結果、災害時や停電時に一時的に円滑な電源の確保ができるようになった。このことで災害時に備えて事業所を利用している利用者にとっても安全な環境の維持ができるようになった。今後は、使用に関しての職員へ使用方法をレクチャーを行い、機器についてマニュアル等の作成も検討し、どのような状況下においても対応できるように努めていきたい。
4	ふ (社福) フォレスト福祉 会	か 風の森	150,000	150,000	13	「非常用発電機の購入」 南海トラフをばしめとする大規模地震が起こり、停電となった場合、帰宅困難となり利用者が事業所に残る可能性もある。そうなると電力の備蓄も当然必要となり、今回発電機の購入を申請した。購入させていただいた発電機は持ち運びもやすく、事業所のみなさんにも活用できると考えた。停電となった場合は、携帯電話の充電・灯り・非常食の煮沸などの電源活用を考えている。また、購入をきっかけに職員一人ひとりの防災意識が高まってきたことも期待している。災害時のBCP(業務継続計画)は重要であり、購入により停電に備えることができた。また、今後は毎回の避難訓練時に発電機の使い方の時間を設けて、全職員が適切に使用できるようにしていきたい。
5	ば (社福) バオバブ福祉 会	え えるで	200,000	200,000	35	「みんなのWIA2025の開催」 各種団体が結集し、「人と人とのつながり」の大切さを再認識し、みんなが元気で明るく過ごせる地域づくりをすすめると共に、地域の方々、絆(子ども)食堂に参加する子どもたちも、楽しく参加し、みんなが交流しあえる機会を作るとともに開催。各種出店(飲食、体験、製品販売、フリーマーケット、子ども遊びコーナーなど)、ステージ企画(各種団体より出演(絆(子ども)食堂開店。改めて、人と人とのつながりの大切さを再認識できるイベントとなった。これからもこのイベントを通じて多くのつながりを作り、「共に地域でいきいきと」できる関係をつくる機会にしていきたい。
6	お (株) オールケア旭	旭 オールケア旭	70,000	70,000	2	「ポータブル電源の購入(増設)」 当施設では、医療的ケアを必要とする方が、大変多く、ほとんどの方が区分6であり、重症心身障がいの方である。大規模災害が日中活動中に起こった場合を想定すると、家族と連絡断絶できるままでは事業所で過ごすことになるため、必要な電源の確保が必要。安定的な電源供給できるよう、今年度もポータブル電源の増設を行った。人工呼吸器・加温加湿器を必要とする利用者が今年度さらに増えているので、同時使用するためには現状の2台では不足するため、今後定期的に増設する必要がある。また平時の活動等にも使用し非常時に対応できるよう、職員への周知・研修を持ち、利用者の生活が安全に楽しく豊かになるよう考えて活用していきたい。
7	ゆ (社福) ゆうとおん	ゆ ほーぶ	50,000	50,000	2	「ゆうとおんねんまつりの実施」 地域の方々の交流の場や他事業所との交流を目的に開催した。開催にあたっては当事者から実行委員の参加者を募り、当事者を含めた会議を何度も行い、やりたいことなど意見をを出してもいい模擬店なども考えた。まつりを通して、地域から来ていただいた方や、日頃事業所に来ることが難しい家族などにも日頃の活動を知っていただく機会を設けることができた。昨年に続き、ゆうとおんバンドも行い、新たにゆうとおんの劇団1劇団も行った。西郡秋祭地車保存会など新しい要素を加えることで、より多くの地域の方々と交流することができた。また、他事業所からも出店いただくことができ、他事業所との交流の場を設けることができた。
8	か (社福) 風の会	か 風の会	150,000	150,000	9	「利用者日帰り旅行の実施」 「びわ湖大津館」にて初めてのフレンチのランチを楽しむ、歴史建造物の見学を体験し、仲間、保護者との交流を育んだ。初めてのフレンチでのコース料理に、はじめは緊張気味だった利用者も、食事のおいしさに笑顔があふれていた。また、保護者も普段顔を合わすことがないため、保護者間での会話が弾んでいた。帰りのバスではカラオケ大会となり、こそとばかりに得意な歌を披露していた。医療的ケアを必要とされる方、身体不自由の方が他の知的障がいの方々と一緒に旅行に行けたことは法人にとって大きな収穫となった。排せつ介助も屏風で仕切つてくざさり、持参したキャンプ用のベットで行うことができ、支援者にとっても、今後利用者の活動の幅を広げることができる大切な経験となった。この経験を今後の活動にもぜひ役立てていきたいと思う。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 事 業 概 要
9 お	(社)福 大阪府 障害者福祉 事業団	ジョブライフ だいせん	112,500	112,500	24	「音楽鑑賞・食事会の実施」 利用者、職員、家族の親睦を兼ね、普段から外出が難しい高齢重度の利用者が楽しみ、職員のモチベーションを向上させるために実施した。昨年も実施したとき、利用者の表情がとても素敵であったが、今年も、演奏者の声掛けに合わせて、思い思いに身体を動かしたりと、目の前の演奏にとでも盛り上がり、思い出に残るイベントとなった。身体を動かした後の食事会では、皆笑顔で、利用者、家族共にリラックスティと稱やかに有意義な時間を過ごすことができた。今後も、利用者の思いを大事にしなが、職員間のコミュニケーションも図っていききたい。また、利用者と職員が元気になる楽しいイベントを開催していきたい。
10 こ	(株) Cocofeel	ミーサ	70,000	70,000	4	「災害時におけるポータブル電源の購入と地震想定避難訓練の実施」 災害時、保護者等への連絡にスマートフォンやパソコンの電源の確保が必要になるため野外でも安定した電源の確保が可能なソーラーパネルで蓄電が可能なポータブル電源を購入し、地震想定避難訓練の実施は、ポータブル電源持ち出し担当者も決め、避難後は、ポータブル電源で実際に携帯電話等に充電がスムーズに行えるかの動作確認を行った。ポータブル電源は屋内でも利用することもでき、またソーラーパネルにて停電が長引いても蓄電可能であるため、野外に出ない状態のときにも活用できる。今後はソーラーパネルでの充電の確保も行っていきたい。
11 い	(社)福 いわき学園	いわき野生学園	200,000	200,000	25	「障がい者支援に関わる研修会(事業所内研修)の実施」 直接如遇職員が、感染症・食中毒の予防や蔓延防止に関する対策、虐待が起きる理由虐待事例、利用者本位の支援、身体拘束事例等を学び、日々の支援内容を振り返ることで課題や対策、最良の支援方法を見出せるように、また知識の習得、意識の向上を図り、利用者一人ひとりの特性に応じた質の高い支援を行えるよう人材を育成するため、多くの職員が受講できる事業所内研修を実施した。研修では、様々なテーマに対してグループワーク、グループディスカッションを行い、支援方法や考え方について話し合い、日々の支援内容等を振り返ることで、課題を認識し解決方法や最良の支援方法を見出し、職員間で共有した。本研修を活かし、常に利用者に寄り添った支援を行えるよう、引き続きサービスの向上に努める。
12 く	(社)福) くろみ福祉会	夢工房くろみ	150,000	150,000	26	「夢工房くろみ忘年会の実施」 当初、事業所外の会場を借りての実施予定であったが、コロナ陽性者が数名発生したため、感染拡大防止のため、事業所内での各グループごとの忘年会に変更した。コロナ禍にあっても1年間の頑張りを評価したい、みんなで集まりたいという思いからの全体行事として取り組んできたが、今年度はグループごとでの実施となった。今回の収穫として、全体での実施ではなく各グループごとでの実施のあり方について学びがあった。大きなスクリーンで1年間の活動をスライドショーで行い、各グループごとの会場をリモートでつなげると全体集合とは違った雰囲気でお会合を楽しむことができた。1年間仕事を頑張ってきたこと、自分の目標に向かって取り組んできたことなどを振り返りながら、来年度も頑張ることを確認することができた。
13 の	(NPO) ノーマライゼー ション高槻	こ コルメナ	200,000	200,000	13	「アート展の開催」 2020年の法人設立10周年を記念してアート展を開催する予定であったが、コロナ禍のため2024年5月に開催した。利用者の日々作り続けてきた作品の魅力を多くの方に観ていただき、アート展を通じて事業所を知っていただき、何より作品を生み出されている方々を知っていただく開催した。内容としては、刺繍作品、造形作品、絵画を展示。パネル作品や刺繍小物、刺繍バッグ、オリジナルTシャツの販売。会期中、当事業所と関わりのある方々、他の事業所の方々、近隣店舗など200名超の来場者があった。
14 い	(社)福 和泉つくし福祉 会	さ らの郷	200,000	200,000	11	「『安心安全に生活できる地域社会の実現に向けた環境づくり』に寄与するための研修会等の実施」 (1)「親亡き後の不安」を少しでも軽減する働きかけとして、「成年後見制度」をテーマとした研修会を開催した。経験豊富な講師を招き、親亡き後の成年後見制度の活用、財産管理の手続き等について大変貴重な話を聞くことができた。(2)グループホームの日々の入居者の生活をサポートする中で、突発的に発生する自然災害への不安がたまっていた。今回非常用電源を整備したことで、災害時におけるグループホーム入居者への安心・安全な生活の確保につながれると感じた。今回の成果を踏まえた研修会の実施や防災の取り組みを今後も引き続き検討するとともに、障害を有する人たちが「安心安全に生活できる地域社会の実現に向けた環境づくり」を少しでも前進できるように努めていきたい。
15 こ	(社)福 こごせ福祉会	た 第2拓作業所	70,000	70,000	3	「第16回こごせ福祉まつりの開催」 法人が一つになり、利用者、家族、法人関係者及び後援会の方々、地域の方々と楽しみ、交流を深めると共に利用者の日頃の作業所生活を知っていただくために開催した。成果としては、利用者が祭りに向けて準備や舞台発表に向けた成果を出すことができた。舞台のゲストのバファーマンズ(ダンス)を会場一体になって楽しむことができた。利用者が自分たちの商品を販売ができた。絵画の作品や日ごろの活動の紹介の展示を多くの家族等に見てもらうことができた。テーマ「スマイルいっぱい みんなでまつりを楽しもう!」のとおり、笑顔で一日を楽しむことができた。
16 み	(合同会社) 美/倉	や すらぎの苑 中津	70,000	70,000	1	「イベント交流会の実施」 様々なスポーツを通して交流を行う、日頃利用者と関わるスタッフも利用者の違った一面や気づきがある時間として楽しい交流会を実施。当初、スポンチャー(約50種類以上のスポーツやアミューズメントを詰め込んだ、大人から子供まで楽しめるレジャー施設)にてスポーツ交流会を予定していましたが、身体障がいの方も気軽にみんなが参加できるイベントにしよう企画をゲームイベントにしました。利用者さんスタッフ30名がそれぞれグループに分かれ、自己紹介ゲームでは10分間互いに自己紹介や質問をしながらなるべく共通点を見つけグループごとで発表しました。就労ゲームでは、就労に関するクイズ3択問題で当ていくゲーム、意外と知らないこともあり、ユニークな発表もあり盛り上がりしました。最後はビンゴゲームを行い記念撮影、その後食事会を行いました。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 事 業 概 要
17	じ (社福) 自立支援協会	け ケアホームアピカ	70,000	70,000	6	「台風・震災に備えてポータブル電源の購入」 災害時、グループホームの生活支援が継続できるよう、ポータブル電源の購入を行った。ホーム入居者会議を兼ねて、避難訓練を実施した。「2018年台風時、グループホームが停電・復旧までに何日かかったこと」「南海トラフ地震が起きたら、同じように停電になる?」、「困らないようにポータブル電源」等、職員・入居者で話し合い、実際にポータブル電源の充電・電気の供給を入居者に体験してもらった。入居者が実際にポータブル電源を体験できた避難訓練は、いつもの避難訓練とは異なり、活気があったように感じた。来年以降の避難訓練も入居者に興味を持って参加してもらえように、今年と同じように何か工夫をして実施したいと考える。
18	な (NPO) ナポレオン フィッシュ	な ナポレオンフイッシュ	70,000	70,000	2	「地震に備えたラック等転倒防止の実施」 事業所内における災害対策を進めるなかで、地域的に川や海の近くであることから津波や浸水の対策は重点的に行ってきたのですが、転倒防止などの地震対策が不十分であったため実施した。就労継続支援B型事業を行う上で、事業所内には複数のスチールラックがあるため、転倒防止用の製品を購入しそれぞれに設置しました。当初は床や壁への固定を検討しておりましたが、壁の強度の問題や床に固定する際の金具でつまずいて転倒する恐れがあることから、天井への突っ張り棒や、耐震用ゲルなどで対応した。非常災害時等でも利用中の安全が確保できるように、また必要なサービス提供ができるよう今後も非常災害時の対策を強化させていきたい。
19	お (社福) 大阪手をつなぐ 育成会	支援センター 中	150,000	150,000	9	「社会見学旅行の実施」 事業所にて生活介護班・B型事業所の2班実施。神戸須磨方面。利用者が高齢になり家族だけでは本人が希望する外出活動が困難になっている。また、集団で外出する機会が、コロナ感染症以降、激減しており、利用者個々の社会生活の能力および体力の低下がうかがえる。今回の旅行を通して、生きがい・やる気につなげたいと考える。また、行動を通して社会マナーやエチケットを学ぶ機会とした。外食場面では、事前にメニューを写真にして伝えていたことで利用者は出された物を理解し食していた。見学では、事前に利用者の希望を確認し、グループ分けをしていたことで、各利用者が以前より、満足した様子であった。お土産購入時、レジがセルフレジであった為、経験したことがない方が多くセルフレジの使い方をその場で支援員がレクチャーを行った。成果以外に課題が見え、歩行距離の低下、咀嚼・嚥下面の低下が見られた。今後、当センターのプログラムにて課題改善を目的に取り組みきたい。
20	さ (社福) さつき福祉会	集いの場 ふりーばーど	200,000	200,000	44	「第10回吹田えまもんフェスタの開催」(支部協働事業) 吹田市で唯一となる、複数の法人が参加する授産製品の販売会「吹田えまもんフェスタ」を開催した。開催に向けて、チラシの作成を行い、様々な団体や個人宅への配布を行った。配布を通して多くの方へ今回のイベントを知っていただき、層がよい者理解にも繋がったと感じる。3日間の開催であったが多くの来場者があり、売り上げも過去最高額であった。各事業所では授産製品の製造に力を入れ、当日の要員などにも携わり、皆で力を合わせて頑張った結果だと感じる。複数の来場者からも「今年も買いに来たよ」「これ使っているよ」「食べておいしかった」などの声をいただき、このフェスタや授産製品が認知されているように感じた。
21	こ (社福) コスモス	ふれあいの里 かたくら	70,000	70,000	2	「災害時避難用テントの購入」 災害時に着替えや排せつ等支援を行なう場合、プライバシーに配慮して目隠し(カーテン)ができる空間が必要であり、重症身障がい者が通う施設では、特に替えや排せつ等の支援が多いため、このようなワンタッチ型のタープテントが重要になってくる。購入したことで、災害時でも利用者が安全に衛生的に過ごせる空間を保障することができるようになった。ワンタッチタイプのテントなので設置が楽に行え。重量も約21kgで持ち運びも比較的しやすい。今後とも、災害時に必要なものは何か、これからも職員間で話し合い、利用者が災害時でも安心して過ごせるよう備品等の整備を行なっていきたい。
22	い (社福) 今川学園	今林の里	150,000	150,000	11	「イベント(さとまつり)の開催」 今回は昨年実施した、代替イベントではなく例年実施してきた「さとまつり」を復活させた。当施設では最も大きなイベントであり、地域交流を目的に、来場された方に楽しんでいただけるイベントになるよう企画、キッチンカーの設置、舞台発表、展示、自主製品販売などを行った。コロナ後、久々の地域へ開放しての取り組みで告知も大きくは行わなかったが、予想よりも多く地域の方も来場し、利用者、その家族も屋台や舞台と楽しそうにしている様子も見られた。来年度も開催し、地域の方への告知なども幅広く行い以前のような「さとまつり」を開催できるようにしていきたいと考えている。
23	お (社福) 大阪聴覚障害 者福祉会	あいらぶ工房	70,000	70,000	5	「2024年度作業お疲れさま会の開催」 生活介護と就労継続支援B型の多機能型施設であり、それぞれお互いの作業の様子は分からない。加えてコロナ流行以後全体で取り組む行事が減ったため、生活介護のなかまとも就労継続支援B型のなかまが触れ合う機会が減った。1年間頑張った作業成果を披露し、振り返りお互いに作業の頑張りを労う。また、家族や日頃支えてくたさっているボランティアの皆さんとの交流の場とするために開催。久しぶりの全体行事として、他の班の作業内容に関心を持って、頑張りに感心したりとお互いを称え労わりあう姿が見られ、レクリエーションではお互いを支えあい、みんな一緒に楽しむことができた。家族の参加もあり、なかまも家族もよっぽどみんな一緒にいいねと笑顔が増えていた。コロナ禍で全体行事や宿泊行事が数年ストップしていたため、全体行事という大きな規模になかまも職員も初めは少し戸惑いがあった。全体行事の経験が無い職員もあり、職員の力量が試された行事でもあった。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実施事業概要
24	ろ (社福) 路交館	う ういざ守口	200,000	200,000	28	「メンバー宿泊旅行の実施」 重度の障がいのある生活介護と中度の障がいのある就労継続B型の利用者とのもメンバー一同士の慰労・懇親・仲間づくりを目的に、昨年9月に神戸方面にて一泊旅行を実施した。今年度もメンバー全員の笑顔とたくさんのお出掛けを共有することができた。重度の知的障がいのあるメンバーにとっては、年1回のこの行事は大きな意義があり、社会参加の機会を得ることができた。当日までの準備については、職員・メンバーと会議を重ね、利用者主体で事業の取り組みを行った。来年度の旅行の話もすでにメンバーから出ているところでありこの事業の実施が、日々の仕事のモチベーションの向上にも繋がっている。今後、メンバー主体の宿泊行事に取り組みながら、社会参加をより目指していきたい。
25	ろ (社福) 路交館	さ 桜の園	200,000	200,000	33	「利用者宿泊旅行の実施」 障がい当事者の日々の活動の慰労と、これからの生活の活力となることを目的に実施した。今回の旅行では京都嵐山の観光、散策をグループ単位で行うことで準備段階からグループごとに何をしようか、何を食いたいのか等、利用者の意見を聞きながら予定を組み立てていった。また、滋賀ブルーメの丘では、利用者に力メラを渡して題目に沿って写真をとってもらうことでより楽しい記憶が残ったのではないかと感じた。旅行後は、その写真でコンテストを開催し、より一層チーム活動での成果となったのではないかと考える。今後、この旅行でのチーム活動の経験を活かし、地域との交流や行事等で意見を出したり、活躍してもらい利用者主体の活動を進めていきたいと考える。
26	き (株) 業務企画センター	び ビジネス プランニングセン ター	70,000	70,000	1	「作業工賃アップのためのYouTubeクリエイター&プログラマー養成講座の実施講習会の実施」 就労継続支援A型として、利用者及びスタッフの技術・スキル向上を目的。特に、新規事業として開始予定のYouTube動画制作およびブログ等の運動発信に対応できる人材の育成のための講習会を実施。プロダクトローンチ(新商品や新サービスを市場に投入する際に用いる、計画的かつ戦略的なマーケティング手法)専門の外注企業から講師を招聘し、1)効果的な動画作成方法 2)ブログやホームページの記事作成技術(適切な言葉選び、コピーライティング) 3)デザイン技術の講演をしていただいた。動画に基づいたインタビューから、ブログ記事、そしてインスタグラムのようなSNS記事に文章を展開させる方法を学び、YouTubeの動画作りとノートウェア選びや編集技術を習得することができた。
27	お (社福) 大阪福祉事業 団	と 豊里学園	70,000	70,000	7	「非常用ポータブル電源の購入と避難訓練の実施」 災害時において、速やかに避難できるように避難訓練を実施。また避難後、最低限の通信手段確保の為、非常用ポータブル電源を購入した。あらかじめ充電しておいたポータブル電源を設置。避難訓練実施後、安全確保をした後に、ポータブル電源に学園内用の子機、外部用スマートフォン、ノートパソコン1台を充電。避難訓練は毎日実施しているもので、比較的スムーズに実施することができた。ポータブル電源は重量があるので、持っていく移動はできないが、置き場所については検討が必要と感じた。子どもたちは、いつもと少し違う避難訓練に、興味深々な様子であった。
28	ろ (NPO) いらばん星	し 新星	70,000	70,000	1	「障がい児者を育てる保護者や支援者のための講演会の開催」 講師・畠山鐵重氏：重度の脳性まひの長男をお持ちの方の、子育てについての経験談の講演会を実施。親がサポートできていることに限りはありませんが、幼少期に購入していく経験や挑戦は大人になっていく過程で大きな力になっていく。親子で挑戦し、そのプロセスを経験することの大切さ等、講演者による力強い経験談は現在障がい児者を育てる保護者や障がい児者を支援する人たちに、明日への力となり、自信を持って自分の道を歩んでいくことを期待し、この企画を遂行しました。親子で挑戦し、そのプロセスを経験してきた講演者の言葉は多くの保護者や支援者を勇気づけたと考えます。誰もが自己肯定感を持って生活し、「私は私のままでいいんだ」そう思えながら生活できるよう背中を後押ししてできる機会となったと考えます。
29	お (社福) 大阪府肢体不 自由者協会	も 守口障害者支援 センターひだまり	200,000	200,000	12	「日帰り研修旅行の実施」 5年ぶりに、利用者、家族からの要望も多かった日帰り旅行を実施した。車椅子の利用者が多かったため大型リフトバス2台を貸切った。利用者、家族からは楽しかった、食事もおいしかったとの声をいただき、いつもよりいい表情をされていた利用者も多く、楽しまれているのが職員にも伝わり、実施できて良かったと実感した。また、支援員にとっては家族と利用者についての情報共有をするなど交流もでき、外出先でその場にある資源で介助を行うなどの経験をすることで、スキルアップにも繋がったと感じた。コロナ禍で入職した職員も多く、事業所外での支援の経験が少ない中、事前の下見や旅行会社、ホテルとの打ち合わせを重ね、職員全体に周知を行う事で無事、行事を終えることができた。
30	ち (NPO) チャレンジ・ ネットいずみ	と とどろプラス	70,000	70,000	2	「チャレンジ・ネットいずみ創立20周年記念イベントの開催」 NPO法人として創立20周年を迎えるにあたり、記念イベントを開催。利用者が中心となり企画・運営することにより、利用者にとつての経験や楽しみになると共に、地域と繋がりがいい障がい理解や啓発になるような活動の一環として実施した。事業所の認知度を高めるための、記念品は何か良いのかを、予算から考え、デザインは利用者から募り、採用した。このことは自分でも考え、みんなで会議の場で意見を聞き出すという場になった。前年度に続き、イベントが継続化され、振り返って改善策を考えることなどができている。当事業の「就労継続支援B型」は地域協働という形式であり、生産活動だけでなく地域と協力した活動をしており、工賃がそこまで高くない中、この助成金をいただけることで充実した内容になり、利用者も参加しやすくなっている。
31	し (社福) 障友会	け ケアスペース つむぎ	70,000	70,000	1	「10周年記念と閉所に伴う感謝祭行事の開催」 ケアスペースつむぎの創立10周年を祝い、昼食会と式典の開催、記念品の作成を行った。また閉所に伴い、感謝祭を開催した。利用者と家族、来賓を招き記念事業を開催。出張寿司形式にて昼食会を実施し、大変好評であった。記念式典では、10年間のスライドショーを作成し、行事や活動を振り返る中で、これまでの軌跡を思い出すように鑑賞されていたのが印象的であった。時代の経過とともに利用者の変化も見て、楽しまれている職員も知っていた。創立当初を知っている職員が少なくなっている状況で、創立までの苦労や想いなど原点に立ち返ることができるといい機会となった。閉所に伴い、利用者は各事業所に異動となるため、今後同窓会も企画できればと考える。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 事 業 概 要
32	さ (社福) 讀良福祉会	わ ワークセンター 小路	200,000	200,000	31	「あきまつりの開催」 地域の方々、利用者、家族との交流を深めるために「あきまつり」を開催した。当日は雨の中での開催となり、施設内での実施となった。開催前から地域にチラシ配布、インスタグラムでの開催告知を行ったため、雨天の中であつたが多くの地域の方々に来所いただいた。久しぶりにあきまつりの開催を機かしむ方、初めて施設に来所される方など演奏の舞台を観覧いただき、大きな歓声や拍手で会場が盛り上がった。キッチンカーは今回のまつりの目玉となり、たくさんのお客をいただき、一助になったと考える。午後からは大雨となり舞台ゲストの出演のキャンセルもあり、急遽利用者のカラオケ大会を実施した。地域の方、ご家族の方々には利用者のまつりを楽しむ姿や、作業風景のパネル展示、地産製品の販売を通じて、とてもよい交流の場となった。また、舞台出演ゲスト、販売、販売等でたくさんのお客が来所の方々と繋がりもできたことを実感することができた。
33	ほ (社福) 北郷彰の子会	ぶ ぶれいずBe	150,000	125,519	30	「杉の子農園収穫祭・子ども食堂の開催」 「子ども食堂」「地域貢献」「地域交流」を目的にし、利用者と共に地域の方に低価格で食事を提供。収穫祭では、農園で育てたさつまいもを事前に準備していたたき、当日は焼き芋を作り食べていただいた。にはにわキッチン(子ども食堂)では地域の方、法人関係者などの参加があり、カレーライス、ホットドッグを提供した。また利用者の作品展示も行った。大雨予報での開催であつたが、多くの方に来場いただき地域との交流、密着に繋げることができた。今後も定期的イベントにしていきたい。め、人員の確保、プログラム内容の充実を検討していきたい。
34	お (社福) おれんじ会	クッキー工房 おれんじはうす	70,000	70,000	3	「社会体験一泊旅行の実施」 利用者と職員が同じ目的をもって集団行動することの大切さを感じ、絆を深めるために日和山温泉・城崎マリワールド方面にて実施。一泊旅行となると利用者負担が大きい、少しでも負担を減らせるよう、申請を行った。1日目はあいにくの雨模様であつたが宿に到着するまでバス内でベンゴ大会やカラオケ大会を行い、大いに盛り上がりがあった。その後、ホテルにて入浴、宴会では皆さん1年で一番良い笑顔でした。2日目は城崎マリワールドにてショーなどを見学し、目的であつた絆を深めることができた。今後とも1年に一回は、利用者と職員が交流できるようなイベントを引き続き、実施していきたいと考える。
35	く (社福) 草の根共生会	連	150,000	150,000	6	「法人旅行(日帰り)の実施」 年1回の法人旅行を通して社会経験を積み、他者との交流を図ることを目的に実施。観光バスに乗り和歌山マリナシティ見学。事前に現地での楽しみ方のアンケートの結果、黒潮市場で食べ歩き、黒潮温泉に入る、ポルトヨーロッパで遊ぶ、の案が出ました。メンバーそれぞれが選んだ場所を楽しんだ。現地で変更も可能とし、時間内であればなか所3か所に行っても可とした。食べ歩き、温泉、ポルトヨーロッパで遊んだりメンバーの方もスタッフも楽しませていました。メンバーそれぞれが楽しんでいたが、普段は関わりが少くないメンバーとスタッフが関わったり、スタッフ同士の交流も図ることができた。今後とも、メンバーそれぞれのニーズに沿った企画、メンバー自らが企画にもっと参加できるように環境作りを目指したいと考える。
36	ぶ (社福) ぶくぶく福祉会	ぶくぶく福祉会	200,000	200,000	32	「ピープルファースト大会への参加」 ピープルファーストは障がい当事者の思いを発信したり話し合ったりする場として毎年開催されている。今年度は開催地は奈良県になったため、日帰りで2日間の参加は利用者への負担が大きくなるため、宿泊での参加を計画し、助成を申請した。公共交通機関での移動は利用者への負担が大きいため、マイクロバスをチャーターした。2日間にわたり、同じ当事者の思いを聞いたり、自分の思いを発表したり、夜は交流会に参加し食事しながら他府県の当事者との交流を深めることができた。交流会は実費で参加するには少し高額であつたが、今年は助成のお陰で参加することができた。なかなか普段は事業所以外の当事者と交流する機会は少ないため、利用者にとっても良い機会になったとともに、職員についても、たくさんのお客や障がいのある方と交流する機会になり、色々学ぶことがあつた。

理 念

大阪生活サポート協会は、全国生活サポート協会と連携し、助け合うという「互助」の精神を柱に、知的障がい児者・発達障がい児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、安心・安全に、より豊かな生活が送れるよう支援しています。



一般社団法人全国生活サポート協会は、2006（平成 18）年 11 月に知的障がい児者・自閉症児者とその家族の生活上での安心・安全と福祉の増進に寄与する事を目的として設立されました。現在、全国 46 箇所の生活サポート協会と連携し活動しています。

※令和 6（2024）年度より「生活サポート総合補償制度」の加入要件に発達障がい児者を加えることになりました。（自閉症児者は発達障がい児者の中に含まれます。）

大阪生活サポート協会は、知的障がい児者・発達障がい児者が安心・安全に

地域で「自分らしく生きる」を各種事業と補償制度で支援しています！

会員・その家族、支部(事業所等)

支 援

会員(本人)参加支援

- 日常生活支援 ○集まれGH
- 表現活動支援 ○権利擁護
- (作品展示会の開催)
- スポーツの振興
- (スポーツフェスタ、ソフトボール大会など)

家族支援

- セミナー ○研修会 など

支部(事業所等)支援

- 支部活動等助成事業
- (本人参加型事業、人材育成 など)
- 地域密着型活動支援
- (他団体及び事業所間連携・協働による事業など)

地 域 支 援

～地域における支援力向上～

表現活動支援

- 作品展示
- (ホームページ、
- 作品展示会開催など)

人材育成(支援者支援)

- 研修会等の開催
- 他団体及び法人間連携・
- 協働事業の推進

調査研究

- 共同生活援助(GH)の
- 実態調査 など

相 談(365日・24時間)

～困ったとき、いつでも～

電話相談

- なんでも相談
- 『補償制度』に係る相談

ホームページ

「問合せコーナー」からの相談

- なんでも相談
 - 『補償制度』に係る相談
- ↓
- ジェイアイシーウエストへ転送

対面相談(予約制)

- 弁護士相談、税理士相談
- 社会保険労務士相談
- 『補償制度』に係る相談 等

補 償 制 度

生活サポート総合補償制度(AIG普通傷害保険)



令和 6 年度 支部活動等助成事業報告書

令和 7（2025）年 7 月 発行

発行人 安本 伊佐子

発 行 一般社団法人 大阪生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号
大阪府社会福祉会館内

TEL：06-6764-6889 FAX：06-6770-5988

E-mail：kyokai@osakasupport.or.jp

URL：https://www.osakasupport.or.jp
